

平成19年度 仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会

報 告 書

平成20年1月10日

目次

報告書の作成にあたって	1
調査の概要	2
結果	4
1 教科に関する調査の結果	4
(1) 概要	4
(2) 設問分類・区分別集計結果から	6
(3) 各設問の集計結果から	11
2 児童生徒質問紙調査の結果	15
(1) 概要	15
(2) 小学校6年生にみられる望ましい傾向	15
(3) 小学校6年生の課題と考えられる傾向	18
(4) 中学校3年生にみられる望ましい傾向	19
(5) 中学校3年生の課題と考えられる傾向	24
3 学校質問紙調査の結果	26
(1) 概要	26
(2) 小学校の取り組みについて	26
(3) 中学校の取り組みについて	29
4 児童生徒質問紙と教科に関する調査のクロス集計から	32
(1) 概要	32
(2) 小学校6年生にみられる関連の傾向	32
(3) 中学校3年生にみられる関連の傾向	33
改善の方策	35
1 全体的な取り組みとして	35
2 学年・教科・区分・各設問ごとの具体的な改善の方策	39
3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のありかたについて	51
4 その他	54
参考資料等	55

報告書の作成にあたって

本報告書の作成にあたっては、「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」に則って作成することに特に留意した。

報告書作成の基本的な立場については「第2条（結果の公表）」に基づき、また、その内容については、「第4条（改善策の立案）」の規定に従っている。

（結果の公表）

第2条

仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

（改善策の立案）

第4条

結果を受けた改善策は仙北市教育委員会教育研究室「算数・数学学習指導研究委員会」及び「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

以上の点を踏まえて、仙北市教育委員会が仙北市民に対する説明責任を果たし、学校の教育及び教育委員会の教育施策の改善に資することを目的として本報告書を作成した。

調査の概要

1 調査の目的

- ア) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

2 実施主体 文部科学省

3 参加主体 市町村教育委員会

4 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

5 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

) 主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

) 主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

) 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

) 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

6 調査期日

平成19年4月24日(火)

7 4月24日に調査を実施した学校数・児童生徒数

(1)実施学校数

	小学校		実施率 (%)	中学校		実施率 (%)
	調査対象者 在籍学校数	実施学校数		調査対象者 在籍学校数	実施学校数	
全国(国公立)	22,194	22,072	99.5	11,019	10,544	95.7
全国(公立)	21,939	21,889	99.8	10,250	10,050	98.0
秋田県(公立)	282	282	100	134	134	100
仙北市教育委員会	9	9	100	5	5	100

(2)実施児童生徒数

小学校児童	集計数	児童数				
		国語A	国語B	算数A	算数B	質問紙
全国(国公立)	1,191,283	1,139,482	1,139,322	1,139,492	1,139,423	1,139,465
全国(公立)	1,176,828	1,125,575	1,125,422	1,125,585	1,125,522	1,125,566
秋田県(公立)	9,617	9,616	9,615	9,616	9,614	9,612
仙北市教育委員会	249	249	249	249	249	249

中学校生徒数	集計数	生徒数				
		国語A	国語B	数学A	数学B	質問紙
全国(国公立)	1,083,393	1,076,177	1,076,690	1,077,011	1,077,209	1,075,412
全国(公立)	1,029,438	1,022,518	1,023,009	1,023,316	1,023,516	1,021,572
秋田県(公立)	10,130	10,107	10,103	10,106	10,104	10,097
仙北市教育委員会	263	262	262	263	263	263

1 教科に関する調査の結果

(1)概要

本調査における全国及び秋田県の平均正答率と仙北市全体の平均正答率を、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学のそれぞれ「A：主として知識」及び「B：主として活用」の区分で比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分の視点から比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

全国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、表1にあるように、仙北市の小学校6年生と中学校3年生の国語、算数・数学の学習状況は概ね満足できる状況である。

全国の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目の全てで仙北市が上回っている。

秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目中、7項目で仙北市は上回っているかもしくは同じ正答率である。

仙北市の状況の中では、小学校6年算数「A：主として知識」が最も良好な状況であり、小学校6年国語「A：主として知識」、中学校3年国語「A：主として知識」が良好な状況である。

【課題】

秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年国語「B：主として活用」に課題がある。

仙北市の平均正答率を「A：主として知識」「B：主として活用」で比較した場合、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学の全てで「B：主として活用」の平均正答率が、「A：主として知識」の平均正答率を下回っている。

特に中学校3年数学の「B：主として活用」、小学校6年国語の「B：主として活用」、同じく算数の「B：主として活用」に課題がある。

表 1 : 「全国及び秋田県の平均正答率との比較（教科・問題別）」

学年	教科等	区分	平均正答率	仙北市の状況
小学校 6 年生	国語 A : 主として知識	全国(公立)	81.7%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	86.1%	概ね満足できる状況
	国語 B : 主として活用	全国(公立)	62.0%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	69.0%	概ね満足できる状況
	算数 A : 主として知識	全国(公立)	82.1%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	88.4%	概ね満足できる状況
算数 B : 主として活用	全国(公立)	63.6%	概ね満足できる状況	
	秋田県(公立)	68.6%	概ね満足できる状況	
中学校 3 年生	国語 A : 主として知識	全国(公立)	81.6%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	85.4%	概ね満足できる状況
	国語 B : 主として活用	全国(公立)	72.0%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	77.0%	概ね満足できる状況
	数学 A : 主として知識	全国(公立)	71.9%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	77.5%	概ね満足できる状況
数学 B : 主として活用	全国(公立)	60.6%	概ね満足できる状況	
	秋田県(公立)	65.3%	概ね満足できる状況	

表 1 の「仙北市の状況」は、国及び県の平均正答率と比較し、表 2 の表現にしたがってもの。

表 2 : 表 1 の「仙北市の状況」に係る階層区分と表現（以下の表同じ）

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が + 6 % 以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が + 5 % 以下 ~ - 5 % 以上であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が - 6 % 以下であるもの	改善が必要な状況

表 2 は「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第 3 条（別表 2）による

(2)設問分類・区分別集計結果から

本調査における全国及び秋田県の「学指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」別の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について「学指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

表3 - (1) ~ 表3 - (8) にあるように、「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目において、国及び秋田県の平均正答率と仙北市を比較してみると、全ての項目で「概ね満足できる状況」もしくは「十分満足できる状況」である。

同様に全国の平均正答率と仙北市の比較からは以下のことが言える。

ア)「小学校6年国語A」では、「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」と「話す・聞く能力」は「十分満足できる状況」であり、他は「概ね満足できる状況」である。

イ)「小学校6年国語B」では、「問題形式」の「選択式」が「概ね満足できる状況」であり、他は全て「十分満足できる状況」である。

ウ)「小学校6年算数A」では、全て「十分満足できる状況」である。

エ)「小学校6年算数B」では、「学習指導要領の領域」の「数と計算」、「評価の観点」の「数学的な考え方」、「問題形式」の「記述式」は「十分満足できる状況」であり、他は「概ね満足できる状況」である。

同様に秋田県の平均正答率と仙北市を比較してみると全て「概ね満足できる状況」である。

仙北市の状況の中で小学校6年については以下のことが言える。

ア)「国語」の「A：主として知識」の「学習指導要領の領域」では「書くこと」「言語事項」が、「評価の観点」では「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」が特に良好な状況である。

イ)「算数」の「A：主として知識」の「学習指導要領の領域」では「量と測定」「図形」「数量関係」が、「評価の観点」では「数量や図形についての表現・処理」が特に良好な状況である。

仙北市の状況の中で中学校3年については以下のことが言える。

ア)「国語」の「A：主として知識」の「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」が、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」と「話す・聞く能力」が特に良好な状況である。

イ)「数学」の「B：主として活用」の「評価の観点」では「数量・図形などについての知識・理解」が特に良好な状況である。

【課題】

秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から比較した場合、小学校6年の「国語」に次のような課題がある。

ア) 小学校6年「国語」「A：主として知識」を「学習指導要領の領域」でみると、「話すこと・聞くこと」に、「評価の観点」でみると「話す・聞く能力」に課題がある。

イ) 小学校6年「国語」「B：主として活用」を「学習指導要領の領域」でみると、「読むこと」に、「評価の観点」でみると「読む能力」に、「問題形式」でみると「短答式」の問題に課題がある。

仙北市の状況の中では以下のことが言える。

ア) 小学校6年の「算数」「B：主として活用」の「問題形式」では、「記述式」の問題に課題がある。

イ) 中学校3年「数学」「B：主として活用」の「学習指導要領の領域」でみると「数と式」に、「問題形式」でみると「記述式」に課題がある。

表3 - (1) : 「小学校6年国語A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 導 域 要 領	話すこと・聞くこと	2	62.9	56.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書くこと	1	89.9	85.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	3	72.9	67.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語事項	13	90.8	86.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	3	81.2	74.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	2	62.9	56.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書く能力	1	89.9	85.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	3	72.9	67.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	13	90.8	86.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 題 形 式	選択式	10	84.9	81.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	8	87.5	81.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (2) : 「小学校6年国語B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 導 域 要 領	話すこと・聞くこと	2	77.1	70.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書くこと	4	69.5	61.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと	7	64.6	57.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語事項	1	85.9	77.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	4	73.0	66.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	2	77.1	70.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書く能力	4	69.5	61.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	7	64.6	57.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	1	85.9	77.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問 題 形 式	選択式	1	67.7	62.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	4	70.6	62.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	5	68.4	62.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

表3 - (3) : 「小学校6算数A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 導 域 要 領	数と計算	11	87.7	81.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	量と測定	3	92.8	86.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	図形	2	92.4	86.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量関係	4	86.2	75.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評 価 の 観 点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	0				
	数量や図形についての表現・処理	9	90.0	83.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	10	87.4	80.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問 題 形 式	選択式	5	82.7	76.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	14	90.7	84.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (4) : 「小学校6算数B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	数と計算	2	66.4	58.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	量と測定	3	63.4	58.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	3	76.0	72.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量関係	9	70.8	65.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 観 点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	8	66.0	59.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量や図形についての表現・処理	4	69.9	65.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	2	75.1	73.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	5	77.3	73.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	4	77.8	73.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	5	51.9	45.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

表3 - (5) : 「中学校3国語A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	話すこと・聞くこと	8	92.9	90.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	4	80.1	73.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと	7	84.9	80.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語事項	18	83.2	80.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 観 点	国語への関心・意欲・態度	3	87.6	83.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	話す・聞く能力	8	92.9	90.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書く能力	4	80.1	73.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	7	84.9	80.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	18	83.2	80.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	20	86.9	84.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	16	83.6	79.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	1	78.3	72.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

表3 - (6) : 「中学校3年国語B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導領域	話すこと・聞くこと	1	86.1	81.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	3	70.1	64.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	9	76.2	70.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語事項	1	73.7	68.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	70.1	64.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	話す・聞く能力	1	86.1	81.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書く能力	3	70.1	64.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	9	76.2	70.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	1	73.7	68.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題形式	選択式	5	83.6	79.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	2	71.5	63.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	3	70.1	64.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

表3 - (7) : 「中学校3年数学A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導領域	数と式	12	79.5	74.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	12	81.1	75.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量関係	12	72.2	65.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	0				
	数学的な表現・処理	14	76.8	70.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	22	78.1	72.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題形式	選択式	18	75.8	70.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	18	79.4	73.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (8) : 「中学校3年数学B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導要 領の領 域	数と式	5	54.2	48.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	図形	2	57.8	53.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量関係	10	72.5	67.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 の 観 点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	13	62.2	56.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数学的な表現・処理	3	68.8	66.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	1	96.6	93.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 題 形 式	選択式	3	67.6	63.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	7	78.6	74.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	7	51.2	45.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

(3)各設問の集計結果から

ここでは、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について、各設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、特徴的なものについて示す。

小学校6年「国語」「A:主として知識」について

ア)「設問番号7」「スピーチでの聞き手に分かりやすい話し方を選択する」では、「聞き手にとって分かりやすいスピーチをするために大切なことを理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」では「話す・聞く能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号6」「インタビューのメモの工夫を選択する」では、「話の要点を聞き取り効率よくメモを取る」ことに課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」では「話す・聞く能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

小学校6年「国語」「B:主として活用」について

ア)「設問番号2-二」「古紙の再生利用が重要な課題となってきた理由を書く」では、「取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての的確に読み、その理由を要約する」ことに大きな課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号2-三-(1)」「古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く」では、「情報の中から必要な事柄を取りだし、新聞の一部に注意点として書き換える」ことに課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号3」「同じ本を読んで書いた2人の感想文から、共通する書き方の良いところを書く」では、「二つの文章を比べて読み、共通する書き方の良さや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめる」に課題がある。この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

また、この設問は他の設問に比べて「無回答率」が高い。

小学校6年「算数」A:主として知識について

ア)「設問番号3 - (2)」「 0.5 、 $7/10$ 、 $4/5$ のうち最大の数を数直線上表す」では「三つの分数と小数の中で最大の数を見つけ、数直線上に表すことができる」ことに課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「数量や図形についての表現・処理」、「問題形式」では「選択式」の設問である。

イ)「設問番号4」「 210×0.6 の式で答えが求められる問題を選ぶ」では、「小数の乗法の意味について理解している」に大きな課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「数量や図形についての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

小学校6年「算数」B:主として活用について

ア)「設問番号4 - (1)」「木曜日と日曜日に安売りをするケーキ屋で指定されたケーキを買うとき、どちらの曜日がいくら安くなるかを求める式と答えを書く」では「条件を基に各曜日の代金を求めて比較できる」ことに大きな課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号5 - (3)」「長方形の形をした公園と、平行四辺形をした公園について、面積が広い方の公園を答え、その理由を説明する」では、「地図を観察して図形を見だし、面積を比較して説明すること」に大きな課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「量と測定」、「評価の観点」では「数量や図形についての知識・理解」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号6 - (2)」「2人の走り高跳びのめあてについて、計算せずに大小を比較できる理由を説明する」では「式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠となる考えを説明することができる」ことに課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

この設問は他の設問と比較して「無回答率」が高い。

中学校3年「国語」「A:主として知識」について

ア)「設問番号8 - 二 - 2」「漢字を読む(草木が繁茂している)」では「文脈に即して漢字を正しく読む」に大きな課題がある。同様に「設問番号8 - 3」「漢字を書く(友達に本を力す)」では「文脈に即して漢字を正しく書く」に課題がある。

これらの設問は「学習指導要領の領域」では「言語事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

「設問番号8 - 二 - 2」は他の設問と比較して「無回答率」が高い。

イ)「設問番号2 - 三」「手紙の後付けの適切な書き方を選択する」では、「手紙の後付けについて理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では、「書くこと」、「評価の観点」では「書く能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

中学校3年「国語」「B:主として活用」について

ア)「設問番号3 - 三」「中学生の広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し、違いを説明する」では、「資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書く」ことに大きな課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号3 - 二」「中学生が作成した広告カードに共通して書かれている情報を二つ書く」では「広告カードを比較して、共通して書かれている情報を読み取る」ことに課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

中学校3年「数学」「A:主として知識」について

ア)「設問番号5 - (4)」「円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ」では、「底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している」に課題がある。

この設問は、「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数量・図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号10 - (1)」「反比例の表を完成させる」では「反比例の関係を表す表から、表中の値を求めることができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な表現・処理」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される問題である。

ウ)「設問番号3 - (1)」「一次方程式を解くとき、移項の意味を選ぶ」では、「方程式の移項と等式の性質の関係を理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「数量・

図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される問題である。

エ)「設問番号 14 - (1)」「確率を表した事象を選ぶ」では「確率の意味について理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数量・図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

中学校 3年「数学」 「B:主として活用」について

ア)「設問番号 5 - (2)」「時間と水温の関係が一次関数であることが分かるグラフの特徴を説明する」では「グラフ上の点の並び方を理想化、単純化してとらえることができる」に大きな課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

この設問は他の設問と比較して「無回答率」が高い。

イ)「設問番号 2 - (2)」「連続する 5 つの自然数の和が 5 の倍数になることを説明する」では、「ものごとを発展的に考えることができる」に大きな課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

この設問は他の設問と比較して「無回答率」が高い。

ウ)「設問番号 5 - (3)」「水温が 80 になる時間を求める法則を説明する」では、「問題解決の方法を数学的に説明することができる」に大きな課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

この設問は他の設問と比較して「無回答率」が極端に高い。

エ)「設問番号 1 - (2)」「レストランのセットメニューで、条件を満たすメニューを選択する」では「情報を分類整理し適切に選択し、判断することができる」に大きな課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な表現・処理」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

オ)「設問番号 3 - (3)理由」 「新たにつくった計算式が条件に合うことを説明する」では「問題解決の構想を立て、結果を振り返りながら、数学的な表現を用いて説明できる」ことに課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では記述式に分類・区分される設問である。

この設問は他の数学の設問と比較して極端に「無回答率」が高く、小 6・中 3 の全教科の中で最も「無回答率」が高い。

2 児童生徒質問紙調査の結果

(1)概要

本調査における児童生徒質問紙調査について、仙北市全体の特に顕著な傾向がみられるものについて示す。

全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、いくつかの課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向がみられる。

特に「規範意識・礼儀・思いやり」「地域への愛着・地域での生活」「基本的生活習慣・基本的学習習慣」「学習に対する意欲・学習の有用感」について望ましい傾向にあるといえる。

(2)小学校6年生にみられる望ましい傾向

仙北市の傾向

小学校6年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」もしくは、「している」と「どちらかといえば、している」あるいは、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合）が、90%を超えた設問は、99の設問中23の設問であった。

「肯定的回答」の占める割合が90%を超えた設問を分類してみると次のような傾向が読み取れる。

ア)「規範意識・礼儀・思いやり・他者理解」に望ましい傾向がみられる。

(設問：44)学校のきまりを守っていますか

(設問：45)友達との約束を守っていますか

(設問：49)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

(設問：73)相手や場面に応じた言葉づかいに気を付けていますか

(設問：48)人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

イ)「地域への愛着・地域での生活」に望ましい傾向がみられる。

(設問：41)今住んでいる地域が好きですか

(設問：47)近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか

ウ)「基本的生活習慣・基本的学習習慣」に望ましい傾向が見られる。

(設問：1)朝食を毎日食べていますか

(設問：3)身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか

(設問：5)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

(設問：32)家で学校の宿題をしていますか

エ)「学習に対する意欲・学習の有用感」に望ましい傾向がみられる。

(設問：69)国語の勉強は大切だと思いますか

(設問：74)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

(設問：80)算数の勉強は大切だと思いますか

(設問：86) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
と思いますか

(設問：88) グラフの学習が算数以外の学習に役に立つと思いますか

オ) その他に望ましい傾向がみられるもの

学校生活(設問：36) 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか

家庭生活(設問：26) 家の人と普段(月～金曜日)夕食を一緒に食べてい
ますか

自尊感情・達成感(設問：9) ものごとを最後までやりとげて、うれし
かったことがありますか

向上心・社会貢献(設問：50) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

生活体験(設問：59) 包丁やナイフを使って調理をしたことがありますか

スポーツに対する関心(設問：61) スポーツをすることが好きですか

全国との比較から

表4 は、児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙
北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+10ポイント以上のもの
を、その差が大きい順に示している(表の網がけの部分)。県との割合との差は参考
のために示した。

これによると、仙北市の児童は全国と比較して全体として次のような望ましい傾向
がある。

ア)「基本的な生活習慣・学習習慣・家庭学習への取り組み」に望ましい傾向がみ
られる。

(設問：15) 普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか

(設問：3) 身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか

(設問：34) 家で学校の授業の復習をしていますか

(設問：6) 勉強する時間を自分で決めて実行していますか

イ)「地域に対する興味・関心、愛着、奉仕活動に対する姿勢」に望ましい傾向が
みられる。

(設問：43) 今住んでいる地域の行事に参加していますか

(設問：42) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか

(設問：57) 清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加したことがありますか

ウ)「思いやりの心」に望ましい傾向がみられる。

(設問：56) 体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたこと
がありますか

エ)「学習への意欲、国語の学習活動」に望ましい傾向がみられる。

(設問：64)「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか

(設問：75) 国語の授業で、絵や写真、図や表、グラフなどを使って、文章を読
んだり、書いたりしていますか

表4 児童質問紙調査のうち全国と比較して肯定的な回答の占める割合が高い事項

設問番号	質問事項	項目	肯定的回答の割合(%)	否定的回答の割合(%)	仙北市の肯定的回答率との差(ポイント)
(34)	家で学校の授業の復習をしていますか	全国の割合	40.1	59.9	+30.6
		県の割合	74.5	25.5	-3.8
(42)	今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか	全国の割合	46.0	53.9	+21.0
		県の割合	54.7	45.4	+12.3
(15)	普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか	全国の割合	42.1	54.5	+19.7
		県の割合	52.5	46.1	+9.3
(43)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	全国の割合	62.0	37.8	+18.3
		県の割合	77.4	22.5	+2.9
(64)	「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか	全国の割合	75.3	24.5	+14.2
		県の割合	80.1	19.8	+9.4
(6)	勉強する時間を自分で決めて実行していますか	全国の割合	51.8	48.2	+14.0
		県の割合	62.1	37.9	+3.7
(20)	体育の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、運動・スポーツをしますか	全国の割合	36.0	42.4	+13.0
		県の割合	50.9	31.5	-1.9
(3)	身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか	全国の割合	81.6	18.4	+12.8
		県の割合	86.0	14.0	+8.4
(56)	体の不自由な人や高齢者や、困っている人の手助けをしたことがありますか	全国の割合	41.2	58.6	+11.8
		県の割合	41.8	58.3	+11.2
(75)	国語の授業で、絵や写真、図や表、グラフなどを使って、文章を読んだり、書いたりしていますか	全国の割合	58.6	41.3	+10.9
		県の割合	64.6	35.4	+4.9
(57)	清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加したことがありますか	全国の割合	54.1	45.8	+10.1
		県の割合	63.5	36.5	+0.7

「肯定的回答」とは、質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」もしくは、「している」と「どちらかといえば、している」あるいは、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合。「否定的回答」とは、質問紙の選択肢のうち「あまりない」と「全くない」もしくは、「あまりしていない」と「全くしていない」あるいは、「どちらかといえば、当てはまらない」と「当てはまらない」等を合計した割合。(以下同じ)

「設問(15)」の「肯定的回答」は選択肢の「午後9時より前」と「午後9時以降、午後10時より前」を選択した割合を合計したものの。「否定的回答」は選択肢の「午後10時以降、午後11時より前」「午後11時以降、午前0時より前」「午前0時以降」を選択した割合を合計したものの。

「設問(20)」の「肯定的回答」は選択肢の「3時間以上」と「2時間以上3時間より少ない」を選択した割合を合計したものの。「否定的回答」は選択肢の「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」を選択した割合を合計したものの。

(3)小学校6年生の課題と考えられる傾向

ここでは、児童質問紙調査のうち全国の結果と仙北市を比較して、課題と考えられる傾向について示す。

学校の授業以外の学習時間について

表5 は学校の授業以外の学習時間を問うたものである。この中で、「全く学習しない児童の割合」は全国と比較して3.2ポイント少ない。「学習時間が1時間より少ない児童の割合」は全国と比較して8.6ポイント上回っており、「1時間以上学習する児童の割合」は全国と比較して5.7ポイント下回っている。仙北市の小学校6年生は全国と比較した場合、全体として、授業時間以外に1時間以上の学習をする児童の割合が少ないと言える。

表5 学校の授業時間以外の学習時間の全国との比較

設問 (21)	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか		
	A:1時間以上学習する児童の割合	B:学習時間が1時間より少ない児童の割合	C:全く学習しない児童の割合
全国の割合	57.9	38.0	12.0
県の割合	59.4	39.6	7.0
仙北市と全国との回答率の差(ポイント)	-5.7	+8.6	-3.2

表のAは選択肢の「1、3時間以上」「2、2時間以上3時間より少ない」「3、1時間以上2時間より少ない」を選択した割合を合計したもの

表のBは選択肢の「4、30分以上1時間より少ない」「5、30分以下」を選択した割合を合計したもの

「算数B」「国語B」の問題の難易度と解答時間について

表6 は、児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、仙北市の割合が全国より下回っているものを、その差が大きい順に4項目示している(表の網がけの部分)。県との割合との差は参考のために示した。

これによると、「算数B：主として活用」と「国語B：主として活用」で、問題を簡単と感じた児童の割合を全国と比較した場合、仙北市の小学校6年生は問題を簡単と感じた割合が少ないと言える。また、「国語B：主として活用」では、解答時間が十分と感じた児童の割合が少ないと言える。

国語の学習について

「設問：68」の国語の学習が好きな児童の割合が少ないという調査結果は、前述の「(設問：69)国語の勉強は大切だと思いますか」「(設問：74)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の結果で肯定的回答をし

た児童の割合が90%を超えていることと関連させてみると、仙北市の小学校6年生の児童は国語の学習の重要性や有用感を感じているものの、国語学習に対する情意面での反応には課題があると言える。

表 6

設問番号	質問事項	項目	肯定的回答の割合(%)	否定的回答の割合(%)	仙北市の肯定的回答率との差(ポイント)
(99)	調査問題は簡単でしたか (算数B)	全国の割合	42.1	57.5	-7.2
		県の割合	38.7	61.3	-3.8
(95)	解答時間は十分でしたか (算数B)	全国の割合	67.6	32.2	-5.4
		県の割合	66.2	33.9	-4
(97)	調査問題は簡単でしたか (国語B)	全国の割合	34.7	65	-5
		県の割合	29.6	70.4	0.1
(68)	国語の勉強は好きですか	全国の割合	59.6	40.4	-1.8
		県の割合	64.8	35.2	-7

(4)中学校3年生にみられる望ましい傾向

仙北市の傾向

中学校3年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合(質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」もしくは、「している」と「どちらかといえば、している」あるいは、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合)が、90%を超えた設問は、101の設問中23の設問であった。

「肯定的回答」の占める割合が90%を超えた設問を分類してみると次のような傾向が読み取れる。

ア)「規範意識・礼儀・思いやり・他者理解」に望ましい傾向がみられる。

(設問:46)学校の規則を守っていますか

(設問:47)友達との約束を守っていますか

(設問:51)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

(設問:50)人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

(設問:75)相手や場面に応じた言葉づかいに気を付けていますか

イ)「基本的生活習慣・基本的学習習慣」に望ましい傾向が見られる。

(設問:1)朝食を毎日食べていますか

(設問:2)学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか

(設問:5)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

(設問:34)家で学校の宿題をしていますか

ウ)「地域への愛着・地域での生活」に望ましい傾向がみられる。

(設問：49) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか

エ)「学習に対する意欲・学習の有用感」に望ましい傾向がみられる。

(設問：71) 国語の勉強は大切だと思いますか

(設問：76) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

(設問：84) 数学ができるようになりたいと思いますか

(設問：79) 解答を文章で書く問題は、最後まで解答を書こうと努力しましたか

オ) その他に望ましい傾向がみられるもの

自尊心・達成感(設問：9) ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか

学校生活(設問：25) 学校の部活動に参加していますか、(設問：38) 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか

向上心・社会貢献(設問：52) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

生活体験(設問：53) 海、山、湖、川などで遊んだことがありますか

全国との比較から

表7-(1) 及び 表7-(2) は、生徒質問紙調査のうち、全国の肯定的回答の割合と仙北市の生徒の肯定的回答の割合を比較して仙北市の割合が+10ポイント以上のものをその差が大きい順に示している(表の網がけの部分)。県の割合との比較は参考のために示した。

これを分類してみると次のような傾向が読み取れる。

ア)「学習に対する意欲・学習の有用感・活用への意欲」に望ましい傾向がみられる。

(設問：67)「総合的な学習の時間」の授業では、新しいことを発見できると思いますか

(設問：66)「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか

(設問：68)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか

(設問：73)読書は好きですか

(設問：74)新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか

(設問：37)家で自分の興味のあることについて調べたり、勉強したりしていますか

(設問：92)ものごとを見直し、その間違いを正したり、分かりやすく書き直したりすることは、証明の学習に役に立つと思いますか

(設問：86)数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか

(設問：89)樹形図をかくなど、整理して考えることは、普段の生活の中で大切

だと思いませんか

(設問：78) 国語の授業では、友達と話し合ったりして意見を交換する場面が多いですか

(設問：93) 証明の学習は、普段の生活で自ら納得したり、人に説明したりすることに役に立つと思いませんか

(設問：42) 世の中のいろいろな出来事に関心がありますか

イ)「地域への愛着・地域での生活」に望ましい傾向がみられる。

(設問：44) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか

(設問：45) 今住んでいる地域の行事に参加していますか

(設問：43) 今住んでいる地域が好きですか

ウ)「基本的生活習慣・基本的学習習慣」に望ましい傾向が見られる。

(設問：36) 家で学校の授業の復習をしていますか

(設問：6) 勉強する時間を自分で決めて実行していますか

(設問：34) 家で学校の宿題をしていますか

エ)「豊かな生活体験」に望ましい傾向がみられる。

(設問：60) 木材を使ったものづくりをしたことがありますか

(設問：54) 魚や貝や昆虫をつかまえたことがありますか

(設問：53) 海、山、湖、川などで遊んだことがありますか

(設問：56) 花を咲かせたり、野菜を育てたりしたことがありますか

オ)「家庭生活」に望ましい傾向がみられる。

(設問：26) 家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか

(設問：28) 家の人と学校での出来事について話をしていますか

カ) その他に望ましい傾向がみられるもの

「規範意識・礼儀・思いやり・他者理解」に望ましい傾向がみられるもの

(設問：58) 体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがありますか

「学校生活」に望ましい傾向がみられるもの。

(設問：25) 学校の部活動に参加していますか

「向上心・社会貢献」に望ましい傾向がみられるもの

(設問：59) 清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加したことがありますか

(設問：10) 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか

表7 - (1) 生徒質問紙調査のうち、全国と比較して肯定的な回答の占める割合が高い事項

設問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答率 との差(ポイント)
(36)	家で学校の授業の復習をしていますか	全国	39.2	60.6	+36.1
		秋田県	63.1	37	+12.2
(44)	今住んでいる地域の歴史や自然について 関心がありますか	全国	22.3	77.4	+35.8
		秋田県	29.4	70.5	+28.7
(45)	今住んでいる地域の行事に参加していま すか	全国	37.5	62	+32.5
		秋田県	46.7	53	+23.3
(67)	「総合的な学習の時間」の授業では、新し いことを発見できると思いますか	全国	49.1	50.6	+28.5
		秋田県	64.7	35.3	+12.9
(66)	「総合的な学習の時間」の勉強は好きです か	全国	59.9	39.9	+21.9
		秋田県	68.6	31.4	+13.2
(20)	保健体育の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、運動・スポーツをしますか	全国	54.6	22.1	+21.4
		秋田県	67.3	13.2	+8.7
(68)	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普 段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	全国	59.7	39.9	+20.9
		秋田県	67.7	32.1	+12.9
(6)	勉強する時間を自分で決めて実行してい ますか	全国	38.2	61.7	+20.7
		秋田県	48.4	51.5	+10.5
(59)	清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加し たことがありますか	全国	49.8	50	+20.2
		秋田県	59.1	40.8	+10.9
(26)	家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に 食べていますか	全国	40.6	59.3	+15.6
		秋田県	51.3	48.7	+4.9
(73)	読書は好きですか	全国	67.9	31.9	+15.4
		秋田県	75.2	24.8	+8.1
(74)	新しく習った漢字を実際の生活で使おうと していますか	全国	58.1	41.6	+14.9
		秋田県	66.4	33.5	+6.6
(58)	体の不自由な人やお年寄りや、困っている 人の手助けをしたことがありますか	全国	39.6	60.2	+14.8
		秋田県	41.3	58.6	+13.1
(34)	家で学校の宿題をしていますか	全国	80.2	19.6	+14.5
		秋田県	87.7	12.2	+7.0
(28)	家の人と学校での出来事について話をし ていますか	全国	57.8	42	+14
		秋田県	61.7	38.2	+10.1
(37)	家で自分の興味のあることについて調べ たり、勉強したりしていますか	全国	44.5	55.3	+14.0
		秋田県	45.8	54.2	+12.7

表7 - (2) 生徒質問紙調査のうち、全国と比較して肯定的な回答の占める割合が高い事項

設問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答率 との差(ポイント)
(43)	今住んでいる地域が好きですか	全国	73.1	26.8	+13.6
		秋田県	73.1	26.8	+13.6
(78)	国語の授業では、友達と話し合ったりして意見を交換する場面が多いですか	全国	39.5	60.3	+13.4
		秋田県	59.3	40.6	-6.4
(42)	世の中のいろいろな出来事に興味がありますか	全国	62.7	37.2	+13.0
		秋田県	66.6	33.3	+9.1
(60)	木材を使ったものづくりをしたことがありますか	全国	56.3	43.6	+12.9
		秋田県	58.9	41	+10.3
(92)	ものごとを見直し、その間違いを正したり、分かりやすく書き直したりすることは、証明の学習に役に立つと思いますか	全国	71.1	27.1	+12.9
		秋田県	76.3	22.7	+7.7
(54)	魚や貝や昆虫をつかまえたことがありますか	全国	69.6	30.3	+12.6
		秋田県	70.3	29.7	+11.9
(86)	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	全国	30.7	67.9	+12.3
		秋田県	35.5	63.8	+7.5
(25)	学校の部活動に参加していますか	全国	84.6	15	+12.0
		秋田県	93.9	5.8	+2.7
(89)	樹形図をかくなど、整理して考えることは、普段の生活の中で大切だと思いますか	全国	72.1	26.4	+11.9
		秋田県	76.6	22.6	+7.4
(53)	海、山、湖、川などで遊んだことがありますか	全国	84	15.9	+10.7
		秋田県	81.6	18.4	+13.1
(93)	証明の学習は、普段の生活で自ら納得したり、人に説明したりすることに役に立つと思いますか	全国	62.3	35.6	+10.7
		秋田県	67.4	31.2	+5.6
(10)	難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか	全国	62	37.9	+10.6
		秋田県	65.9	34.1	+6.7
(56)	花を咲かせたり、野菜を育てたりしたことがありますか	全国	57.8	42	+10.3
		秋田県	61.2	38.7	+6.9

(5)中学校3年生の課題と考えられる傾向

ここでは、生徒質問紙調査のうち全国の結果と仙北市を比較して、課題と考えられる傾向について示す。

学校の授業以外の学習時間について

表8 は学校の授業以外の学習時間を問うたものである。この中で、「全く学習しない生徒の割合」は全国と比較して7.3ポイント少ない。「学習時間が2時間より少ない生徒の割合」は全国と比較して28.1ポイント上回っているが、「2時間以上学習する生徒の割合」は全国と比較して20.6ポイント下回っている。仙北市の中学校3年生は全国と比較した場合、全体として、授業時間以外に2時間以上の学習をする生徒の割合が少ないと言える。

表8 学校の授業時間以外の学習時間の全国との比較

設問 (21)	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか		
	A: 2時間以上学習する生徒の割合	B: 学習時間が2時間より少ない生徒の割合	C: 全く学習しない生徒の割合
全国の割合	35.4	56.0	8.4
県の割合	23.5	72.4	4.1
仙北市と全国との回答率の差(ポイント)	-20.6	+28.1	-7.3

表のAは選択肢の「1、3時間以上」「2、2時間以上3時間より少ない」を選択した割合を合計したもの
表のBは選択肢の「3、1時間以上2時間より少ない」「4、30分以上1時間より少ない」「5、30分以下」を選択した割合を合計したもの

「数学B」の問題の難易度と解答時間について

表9 は、児童質問紙調査のうち、全国の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、仙北市の割合が全国より下回っているものを、その差が大きい順に3項目示している(表の網がけの部分)。県との割合との差は参考のために示した。

これによると、「数学B：主として活用」で、解答時間を十分であると感じた生徒の割合と問題を簡単と感じた生徒の割合を全国と比較した場合、仙北市の中学校3年生はいずれもその割合が少ないと言える。

日本の代表的な文学作品に触れる機会について

「設問80」で「蜘蛛の糸」を今までに読んだり聞いたりしたことのある生徒の割合が全国と比較して少ないのは、前掲の表7-(1)「設問73：読書は好きですか」で肯定的な回答の割合が高かったこととあわせて考えると、仙北市の中学校3年生は

読書は好きであるが、日本を代表する文学作品の一つに触れる機会が少なかったといえる。

表 9

設問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答率 との差(ポイント)
(97)	解答時間は十分でしたか(数学B)	全国の割合	76.8	21.5	-15.5
		県の割合	68.8	30.3	-7.5
(80)	「蜘蛛の糸」を今までに読んだり聞いたりしたことがありますか	全国の割合	68.2	31.5	-8.2
		県の割合	71.6	28.2	-11.6
(101)	調査問題は簡単でしたか(数学B)	全国の割合	27.5	70.9	-7
		県の割合	25.1	74.1	-4.6

3 学校質問紙調査の結果

ここでは、学校質問紙調査の結果のうち、教育指導に係る観点から仙北市全体の特に顕著な傾向がみられるものについてから示す。

この項で示す表は仙北市内の各小・中学校の回答結果（学校数）を、それぞれの質問事項における回答の割合（小・中学校それぞれの全体の学校数に対して、その回答をした学校の数の割合「%」）として示してある。

(1)概要

全国の状況と比較した場合、放課後や長期休業中の補足的な学習の支援及び児童・生徒の個々の習熟度等に応じたきめ細かい指導で、仙北市内の小・中学校で積極的な取り組みが行われていると言える。

(2)小学校の取り組みについて

全国と比較して積極的に取り組んでいると言える事項

表10 及び 表11 は、学校質問紙調査のうち、全国と比較して仙北市の小学校が積極的に取り組んでいる事項を、全国と仙北市の差が大きい順に示したものである（表の網がけの部分）。県の割合との差は参考のために示した。（表10 は「はい」・「いいえ」の2肢選択の割合。表11 は「1、多くの時間でおこなった」「2、どちらかといえば、行った」「3、あまり行っていない」「4、全く行っていない」及び「1、よく行った」「2、どちらかといえば、行った」「3、あまり行っていない」「4、全く行っていない」の4肢選択のうち、それぞれ「1」と「2」を選択した割合を「肯定的回答の割合」として、「2」「3」を「否定的回答の割合」として示した）

表10 からは、仙北市の小学校は学力向上に対する取り組みの面で、放課後や土曜日、長期休業を利用した補足的な学習の支援などにおいて、積極的に取り組んでいる学校の割合が高いと言える。また、小学校6年生の児童の学力を把握するために、各種テストの分析を積極的に行っている学校の割合が高いと言える。

表11 からは、個に応じたきめ細かい指導の面で、児童の習熟度に応じて発展的な内容や補足的な内容の指導を行ったり、少人数による指導や複数教員による指導及び個別指導などを行っている学校の割合が高いと言える。

また、教科の指導方法に関しては、算数では「実生活における事象との関連を図った授業」、国語・算数では「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」や「計算問題などの反復練習をする授業」を行っている学校の割合が高いと言える。

表 1 0 「全国と比較して仙北市の小学校が積極的に取り組んでいる事項」

質問番号	質問事項	項目	1、「はい」の割合	2、「いいえ」の割合	仙北市の「1、はい」の割合との差(ポイント)
(33)	第6学年の児童に対して、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施していますか	全国の割合	40.9	59.0	+36.9
		県の割合	61.4	38.7	+16.4
(41)	第6学年の児童の学力を把握するため、学年末テストや学期末テストの結果の分析を行いましたか	全国の割合	66.7	33.1	+33.3
		県の割合	85.8	14.2	+14.2
(42)	第6学年の児童の学力を把握するため、単元テストや小テストの結果の分析を行いましたか	全国の割合	79.4	20.4	+20.6
		県の割合	93.6	6.0	+6.4
(34)	第6学年の児童に対して、土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施していますか	全国の割合	2.1	97.8	+9.0
		県の割合	1.1	98.9	+10.0
(35)	第6学年の児童に対して、長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施していますか	全国の割合	47.8	52.2	+7.8
		県の割合	58.5	41.5	-2.9

表 1 1 「全国と比較して仙北市の小学校が積極的に取り組んでいる事項」

質問番号	質問事項	項目	肯定的回答の割合(%)	否定的回答の割合(%)	仙北市の肯定的回答との差(ポイント)
(45)	第6学年の国語の授業で習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行いましたか	全国の割合	23.8	76.1	+31.8
		県の割合	32.2	67.8	+23.4
(44)	第6学年の国語の授業で習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにしましたか	全国の割合	36.8	63.1	+29.9
		県の割合	52.5	47.5	+14.2
(58)	第6学年の児童に対する算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	58.3	41.6	+19.5
		県の割合	68.8	31.2	+9.0
(47)	第6学年の算数の授業で習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにしましたか	全国の割合	80.7	19.2	+19.3
		県の割合	94.3	5.7	+5.7
(48)	第6学年の算数の授業で習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行いましたか	全国の割合	59.9	39.9	+17.9
		県の割合	75.9	24.1	+1.9
(43)	第6学年の国語の授業で習熟の遅いグループに対して複数の教員による指導を行い、習得できるようにしましたか	全国の割合	15.9	83.9	+17.4
		県の割合	19.1	80.8	+14.2
(49)	第6学年の児童に対する国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	65.0	34.9	+12.8
		県の割合	75.9	24.1	+1.9
(57)	第6学年の児童に対する算数の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	87.8	12.2	+12.2
		県の割合	96.5	3.2	+3.5
(50)	第6学年の児童に対する国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	33.4	66.6	+11.0
		県の割合	33.7	66.3	+10.7
(46)	第6学年の算数の授業で習熟の遅いグループに対して複数の教員による指導を行い、習得できるようにしましたか	全国の割合	58.3	41.6	+8.3
		県の割合	73.8	26.3	-7.2
(60)	第6学年の児童に対する算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	全国の割合	60.1	39.9	+6.6
		県の割合	68.4	31.6	-1.7

(55)	第6学年の児童に対する国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	全国の割合	97.0	3.0	+3.0
		県の割合	98.2	1.8	+1.8
(51)	第6学年の児童に対する国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	全国の割合	97.1	2.8	+2.9
		県の割合	97.5	2.5	+2.5
(61)	第6学年の児童に対する算数の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	全国の割合	97.3	2.6	+2.7
		県の割合	97.5	2.5	+2.5

全国と比較して今後の検討課題と考えられる事項

表12は学校質問紙調査のうち、全国と仙北市の小学校を比較して、仙北市の小学校の肯定的回答の割合が全国よりも低かった事項について、その差が大きい順に示したものである。

授業の内容について仙北市の小学校を全国と比較してみると、国語では「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」「書く習慣を付ける授業」「様々な文章を読む習慣を付ける授業」に取り組んでいる学校の割合が低いと言える。

学校教職員以外の人材を活用した授業に関しては「地域の人材を外部講師として招聘した授業」「ボランティア等による授業サポート(補助)」に取り組んでいる学校の割合が低いと言える。

また、「算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)」を与えている学校、「博物館や科学館、図書館を利用した授業」を行っている学校の割合が低いと言える。

表12 「仙北市の小学校の肯定的回答の割合が全国よりも低かった事項」

質問番号	質問事項	項目	肯定的回答の割合(%)	否定的回答の割合(%)	仙北市の肯定的回答との差(ポイント)
(52)	第6学年の児童に対する国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	全国の割合	84.7	15.3	-29.2
		県の割合	88.7	11.4	-33.2
(65)	第6学年の児童に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	全国の割合	78.4	21.5	-22.9
		県の割合	81.6	18.5	-26.1
(53)	第6学年の児童に対する国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか	全国の割合	83.4	16.5	-16.8
		県の割合	86.2	13.8	-19.6
(66)	第6学年の児童に対して、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	全国の割合	36.4	63.6	-14.2
		県の割合	24.5	75.6	-2.3
(59)	第6学年の児童に対する算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	全国の割合	97.5	2.4	-8.6
		県の割合	97.5	2.5	-8.6
(67)	第6学年の児童に対して、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	全国の割合	38.4	61.6	-5.1
		県の割合	36.5	63.5	-3.2
(54)	第6学年の児童に対する国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	全国の割合	80.3	19.7	-2.5
		県の割合	80.5	19.5	-2.7

(3)中学校の取り組みについて

全国と比較して積極的に取り組んでいると言える事項

表13 及び 表14 は、学校質問紙調査のうち、全国と比較して仙北市の中学校が積極的に取り組んでいる事項を、全国と仙北市の差が大きい順に示したものである（表の網がけの部分）。県の割合との差は参考のために示した。（表13 は「はい」・「いいえ」の2肢選択の割合。表14 は「1、多くの時間でおこなった」「2、どちらかといえば、行った」「3、あまり行っていない」「4、全く行っていない」及び「1、よく行った」「2、どちらかといえば、行った」「3、あまり行っていない」「4、全く行っていない」の4肢選択のうち、それぞれ「1」と「2」を選択した割合を「肯定的回答の割合」として、「2」「3」を「否定的回答の割合」として示した）

表13 からは、仙北市の中学校は学力向上に対する取り組みの面で、放課後や土曜日、長期休業を利用した補充的な学習の支援などにおいて、積極的に取り組んでいる学校の割合が高いと言える。また、中学校3年生の生徒の学力を把握するために、各種テストの分析を積極的に行っている学校の割合が高いと言える。

表14 からは、生徒の個に応じたきめ細かい指導の面で、生徒の習熟度に応じて発展的な内容や補充的な内容（特に補充的な内容）を指導したり、少人数による指導や複数教員による指導及び個別指導などを行っている学校の割合が高いと言える。

また、教科の指導に関しては、国語で「様々な文章を読む習慣を付ける授業」「書く習慣を付ける授業」を、数学では「実生活における事象との関連を図った授業」に取り組んでいる学校の割合が高いと言える。

地域の人材活用や、体験的学習の充実の面からは、「ボランティア等による授業サポート（補助）」「博物館や科学館、図書館を利用した授業」に取り組んでいる学校の割合が高いと言える。

「家庭学習の課題（宿題）」に関しては、国語・数学ともに与えている学校の割合が高いと言える。

表13 「全国と比較して仙北市の中学校が積極的に取り組んでいる事項」

質問番号	質問事項	項目	1、「はい」の割合	2、「いいえ」の割合	仙北市の「1、はい」の割合との差(ポイント)
(35)	第3学年の生徒に対して、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施していますか	全国の割合	55.4	44.4	+44.6
		県の割合	77.6	22.4	+22.4
(37)	第3学年の生徒に対して、長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施していますか	全国の割合	75.0	24.8	+25.0
		県の割合	91.0	9.0	+9.0
(44)	第3学年の生徒の学力を把握するため、単元テストや小テストの結果の分析を行いましたか	全国の割合	81.5	18.3	+18.5
		県の割合	91.8	8.2	+8.2
(43)	第3学年の生徒の学力を把握するため、学年末テストや学期末テストの結果の分析を行いましたか	全国の割合	94.0	5.8	+6.0
		県の割合	93.3	6.7	+6.7

表 1 4 「全国と比較して仙北市の中学校が積極的に取り組んでいる事項」

質問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答と の差(ポイント)
(48)	第3学年の数学の授業で習熟の遅いグループに対して複数の 教員による指導を行い、習得できるようにしましたか	全国の割合	51.5	48.2	+48.5
		県の割合	75.4	24.6	+24.6
(52)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、発展的 な学習の指導を行いましたか	全国の割合	46.5	53.3	+33.5
		県の割合	65.7	34.3	+14.3
(61)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、実生活 における事象との関連を図った授業を行いましたか	全国の割合	48.5	51.2	+31.5
		県の割合	60.4	39.5	+19.6
(51)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、補充的 な学習の指導を行いましたか	全国の割合	70.1	29.7	+29.9
		県の割合	82.8	17.2	+17.2
(50)	第3学年の数学の授業で習熟の早いグループに対し て発展的な内容の指導を行いましたか	全国の割合	57.6	42.1	+22.4
		県の割合	75.4	24.6	+4.6
(66)	第3学年の生徒に対して、ボランティア等による授業 サポート(補助)を行いましたか	全国の割合	18.8	81.1	+21.2
		県の割合	20.2	79.9	+19.8
(67)	第3学年の生徒に対して、博物館や科学館、図書館 を利用した授業を行いましたか	全国の割合	20.7	79.1	+19.3
		県の割合	29.9	70.1	+10.1
(56)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、様々な 文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	全国の割合	82.1	17.7	+17.9
		県の割合	78.4	21.6	+21.6
(53)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、家庭学 習の課題(宿題)を与えましたか	全国の割合	84	15.8	+16.0
		県の割合	85.9	14.2	+14.1
(47)	第3学年の国語の授業で習熟の早いグループに対し て発展的な内容の指導を行いましたか	全国の割合	26.5	73.1	+13.5
		県の割合	44	56	-4
(58)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、補充的 な学習の指導を行いましたか	全国の割合	86.7	13.1	+13.3
		県の割合	97.8	2.2	+2.2
(55)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、書く習慣 を付ける授業を行いましたか	全国の割合	87.7	12.1	+12.3
		県の割合	91.8	8.2	+8.2
(60)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、家庭学 習の課題(宿題)を与えましたか	全国の割合	88.6	11.2	+11.4
		県の割合	91.1	8.9	+8.9

全国と比較して今後の検討課題と考えられる事項

表 1 5 は教育指導に係る観点から全国の肯定的回答の割合と仙北市全
体の肯定的回答の割合を比較して、仙北市の肯定的回答の割合が下回った項
目について示している。

これによると、仙北市の中学校は全国と比較して「第3学年の生徒に対す
る数学の指導として、発展的な学習の指導」を行っている学校の割合が低い
と言える。

表 1 5 「仙北市の中学校の肯定的回答の割合が全国よりも低かった事項」

設問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答と の差(ポイント)
(59)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	59.7	40.1	-19.7
		県の割合	68.6	31.3	-28.6

4 児童生徒質問紙と教科に関する調査のクロス集計から

ここでは、「児童生徒質問紙調査」の結果と「教科に関する調査」をクロス集計し、「児童生徒質問紙調査」の回答率と「教科に関する調査」の正答率との相関で仙北市全体の特
に顕著な傾向がみられるものについてから示す。

具体的には、「児童生徒質問紙調査」の「1 している・当てはまる(強い肯定)」「2
どちらかといえば、している・どちらかといえば、当てはまる(弱い肯定)」「3 あまり
していない・あまり当てはまらない(弱い否定)」「4 全くしていない・当てはまらない
(強い否定)」の4つの選択肢ごとに平均正答率を見て、選択肢の「4」「3」「2」
「1」の順に平均正答率が高くなる傾向にあるものを示す。

(1)概要

仙北市の小学校6年生及び中学校3年生は、「基本的な生活習慣や学習習慣に望ましい傾
向がある児童生徒」「家庭生活に望ましい傾向がある児童生徒」「規範意識について望まし
い傾向のある児童生徒」「読書や国語・数学を好きと答えた児童生徒」は正答率が高い傾
向がある。

(2)小学校6年生にみられる相関の傾向

表16 は仙北市の小学校6年生児童について、「質問紙調査」の結果と「教科に関
する調査」の結果との間に相関関係が見られたものである。

表からは次のことが言える。

基本的な生活習慣や学習習慣に望ましい傾向がある児童(質問3、質問5、質問32)
は正答率が高い傾向がある。

家庭生活に望ましい傾向がある児童(質問7、質問27)は正答率が高い傾向がある。

規範意識について望ましい傾向のある児童(質問44、質問46、質問49)は正答
率が高い傾向がある。

国語や読書を好きと答えた児童(質問68、質問71)は、国語Aの正答率が高い傾
向がある。

表 1 6 「質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関が見られたもの

[仙北市：小学校 6 年]

質問 番号	質問事項	相 関 す る 教 科 等	「1」を選択した児童の平均正答率から「2」を選択した児童の平均正答率を引いた差(ポイント)	「2」を選択した児童の平均正答率から「3」を選択した児童の平均正答率を引いた差(ポイント)	「3」を選択した児童の平均正答率から「4」を選択した児童の平均正答率を引いた差(ポイント)
(3)	身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか	国語 B	+5.0	+9.0	
(5)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	国語 A	+2.2	+6.7	+1.1
		国語 B	+5.0	+0.0	+34.0
(7)	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか	算数 A	+0.5	+1.1	+2.1
(27)	家の人と学校での出来事について話をしていますか	国語 A	+0.6	+2.8	+3.3
(32)	家で学校の宿題をしていますか	算数 B	+7.9	+7.8	
(44)	学校のきまりを守っていますか	国語 A	+2.2	+2.8	
		国語 B	+4.0	+21.0	
(46)	人が困っているときは、進んで助けていますか	国語 B	+3.0	+5.0	+9.0
(49)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	国語 A	+1.1	+5.0	
		国語 B	+2.0	+5.0	
(68)	国語の勉強は好きですか	国語 A	+1.7	+2.8	+1.1
(71)	読書は好きですか	国語 A	+3.3	+1.7	+2.2

(3)中学校3年生にみられる相関の傾向

表 1 7 は仙北市の中学校 3 年生生徒について、「質問紙調査」の結果と「教科に関する調査」の結果との間に相関関係が見られたものである。

表からは次のことが言える。

基本的な生活習慣や学習習慣に望ましい傾向がある生徒（質問 2、質問 4、質問 3 6）は正答率が高い傾向がある。

家庭生活に望ましい傾向がある生徒（質問 2 7、質問 3 0）は正答率が高い傾向がある。

規範意識について望ましい傾向のある生徒（質問 4 6、質問 4 7）は正答率が高い傾向がある。

読書や数学を好きと答えた生徒（質問 7 3、質問 8 1）は正答率が高い傾向がある。

表17 「質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関が見られたもの

[仙北市：中学校3年]

質問 番号	質問事項	相 関 す る 教 科 等	「1」を選択した児童の平均正答率から「2」を選択した児童の平均正答率を引いた差(ポイント)	「2」を選択した児童の平均正答率から「3」を選択した児童の平均正答率を引いた差(ポイント)	「3」を選択した児童の平均正答率から「4」を選択した児童の平均正答率を引いた差(ポイント)
(2)	学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	数学A	+5.2	+7.3	+3.7
		数学B	+4.4	+4.9	+4.4
(4)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	数学A	+3.3	+0.4	+3.0
(27)	家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか	国語A	+2.8	+2.5	+1.4
		数学B	+0.8	+4.6	+5.4
(30)	家の手伝いをしていますか	国語A	+2.3	+1.5	+3.3
(36)	家で学校の授業の復習をしていますか	数学A	+3.9	+7.1	+0.5
		数学B	+3.2	+1.8	+1.1
(46)	学校の規則を守っていますか	国語A	+0.6	+10.0	
		国語B	+0.1	+10.1	
		数学A	+0.8	+11.8	
(47)	友達との約束を守っていますか	数学A	+0.6	+9.5	
(73)	読書は好きですか	国語B	+6.4	+4.6	+5.7
		数学A	+2.2	+2.1	+6.6
		数学B	+3.3	+3.1	+5.6
(81)	数学の勉強は好きですか	国語B	+2.8	+0.0	+6.7
		数学A	+6.3	+9.9	+11.3
		数学B	+7.2	+9.7	+10.3

改善の方策

ここでは、仙北市全体の状況を踏まえて、一層の確かな学力の向上と課題の解決・授業改善のための方向性として考えられることを示す。

1 全体的な取り組みとして

(1)実生活と結びついた授業への取り組み

「教科に関する調査（国語、算数・数学）」の問題作成の基本理念は次のように二つに整理されている。

ア)「主として知識に関する問題 [国語A、算数・数学A]」

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

イ)主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力など

「知識」「活用」それぞれ、実生活（学校生活や社会生活など）において不可欠であり、実生活の中で活用する能力という観点から問題が作成されている。

仙北市全体の状況においても、実生活に結びついた「知識」の習得と「活用」の能力の育成にいくつかの課題が見られる。今後の学習指導の場面では、このことを念頭において授業改善にあたる必要がある。実生活に結びついた学習指導によって、児童生徒は実感をともなった理解を得て、目的や場面、意図に応じてこれを活用する能力が育成されると考えられる。

(2)学校全体で取り組む組織的・計画的な授業改善

本調査の教科に関する調査は小学校6年の国語・算数、中学校3年の国語・数学に限定されたものであった。しかし、改善のための視点やそれぞれの調査問題の背後にある出題の意図は単に2教科に限定されるものではなく、2教科以外の教科等にも共通するものがある。

例えば、国語、算数・数学の多くの設問で「テキストの中の情報を取り出し、情報を正しく読み取る力」「書かれた情報から推論して意味を理解しテキストを解釈する力」「書かれた情報を自らの知識や経験に位置づけ熟考・評価する力」という観点で問うているものがある。これは、OECDにおけるPISA調査の「読解力」の問題で、テキストを読み解く三つのプロセスで必要な力である。このような力は、本調査で実施された2教科のみで育成されるものではない。

従って、今回の調査結果を受けた授業改善は、国語、算数・数学のみならず、他の全ての教科等を含めて学校全体で取り組むべきであると同時に、各学校でPDCAサイクルに基づいて組織的・計画的に取り組む必要がある。

全ての教科で取り組む学習活動を考える際に一つの参考になるのは、「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ（平成19年11月7日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）」「5. 学習指導要領改訂の基本的な考え方」の「(4) 思考力・判断力・表現力等の育成」の項に「...知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等をはぐくむための学習活動について、次のような分類を試みた」として示されている以下の学習活動である。

体験から感じ取ったことを表現する

事実を正確に理解し伝達する

概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

情報を分析・評価し、論述する

課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

これらの活動は、思考力・判断力・表現力等をはぐくむための活動の分類として示されているものであるが、今後各教科等で共通して取り組む学習活動を考える際に参考になると考えられる。

(3) 仙北市の「子どもたち」「家庭・地域」「学校での指導」の良さを生かした授業

本調査では、仙北市の子どもたち、家庭・地域及びこれまでの学校での指導の良さが示されている。授業改善に当たっては、これらの良さを生かし、一層広げ、深めることを念頭において取り組みたい。

例えば「教科に関する調査の結果」では、全国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生の国語、算数・数学の学習状況は概ね満足できる状況であること、全国の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目の全てで仙北市が上回っていることは、子どもたちの良さであると同時に、家庭・地域と学校のこれまでの指導の良さが反映されていると言える。

「児童生徒質問紙調査の結果」では、全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、いくつかの課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向がみられること。特に「規範意識・礼儀・思いやり」「地域への愛着・地域での生活」「基本的な生活習慣・基本的学習習慣」「学習に対する意欲・学習の有用感」について望ましい傾向にあると言えることは、仙北市の家庭・地域及び子どもたちの良さである。

「学校質問紙調査の結果」からは、全国の状況と比較した場合、放課後や長期休業中の補充的な学習の支援及び児童・生徒の個々の習熟度等に応じたきめ細かい指導で、仙北市内の小・中学校で積極的な取り組みが行われていると言えるが、これは、仙北市の学校のこれまでの指導の良さである。

それぞれの調査結果であらわれた子どもたちの良さを確かめ、それをもたらした地域の良さをさらに活用し、家庭との連携を一層深め、学校のこれまでの指導の良さを維持・発展させながら、今後の改善にあたりたい。

(4)仙北市内の各学校で取り組んでいる改善策の共有化

「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」では、現在仙北市内の各学校で取り組んでいる改善策について報告・検討し、仙北市全体で取り組める内容についての意見交換を行った。今後の仙北市の改善策に結びつくと考えられるものを以下に示す。

小学校国語

(1)話す・聞くの指導について

- ・国語や特活など教科・領域等で指導の関連を図るために、関連を示した年間指導計画を作成して指導にあたる。連携して「話し合うこと」に力を入れる。
- ・話し合いの方法を学ばせながら、話し合いを通して練り合い、それを自分なりにまとめて表現する学習過程を意図的に取り入れる。

(2)読解力の指導について

- ・書かれてある文章の言葉にこだわらせ、場面や心情を読み取らせる指導の充実。
- ・学び合いを通して推敲する力などを養っていく指導の工夫。

(3)読書指導について

- ・子どもの意欲をかきたてる読書活動の工夫。
- ・ただ読ませる読書ではなく、考えて書くことに結びつける読書活動の工夫。

(4)国語好きの子どもを育てるために

- ・自分の考えを表現し、それを互いに共感的に受け止められるような授業の工夫。
- ・言葉をもとに練り合い、感想をもとに深め合える授業の工夫。
- ・「本て、おもしろいな」「話し合うことって役にたつな」と感じることができる授業の工夫。
- ・学び合いのよさを実感できる授業の工夫。

小学校算数

(1)授業の組み立てについて

- ・「めあて（ねり合い、学び合い）まとめ 振り返り」をしっかりと行う。

(2)基礎・基本の定着

- ・全校体制で取り組む。7年部の協力を得て個への対応を行う。

(3)ノート指導について

- ・「きれいなノート」「黒板を写すだけのノート」ではなく、自分の考えや友だちの考えを生かしたノートを作れるようにする。（考えを深める、表現力を高める）
- ・プリント等に頼らず、ノートを柱にして思考の足跡（解決過程）を大切にし、それを表現に結びつける指導。

(4)結果の活用

- ・5年生以下の学年へ、今回の結果を生かす。

中学校国語

(1)「A：主として知識」について

「手紙の書き方」については、職場訪問の依頼状作成等、実際に活用する機会と関連させて行う。「漢字の読み書き」については、間違いやすい漢字については、まず「意味」の取り立て指導をし、そこから「読める」「書ける」、つまり知識の定着・活用ができるようにする。

(2)「B：主として活用」について

「資料から情報を読み取り、考えを書く」については、多様な文章に触れさせたり、週1回新聞記事に対する意見を書く等「読んで書く」機会を意図的に増やす。

中学校数学

(1)日々の授業の中での取り組みとして

- ・毎時間のミニテストや自己評価カードの記入による振り返りなど、普段の授業における積み重ねを大切にした指導。
- ・自分たちで考える力や活用する力をつけさせるために、常に意味や理由を問いかける授業。

(2)活用する力をつけるために

- ・自分の考えを形にして表現させ、生徒どうしが話し合う活動を取り入れた授業。
- ・自分の考えを言葉で説明させたり、文章として書かせる指導の充実。

(3)全校体制での取り組み

- ・読解力の向上は、数学科だけでは解決できない。他教科の協力が必要であると同時に全校体制で取り組む必要がある。
- ・職員研修で数学の問題を全職員に配布し、全教科で取り組めるようにする。

2 学年・教科・区分・各設問ごとの具体的な改善の方策

ここでは、本報告書の「結果」「1 教科に関する調査の結果」「(3)各設問の集計結果から」に示された仙北市の状況の中で、学年・教科・区分について各設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、特徴的なものについて改善策の例を示す。改善策の例は「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料(平成19年5月[国立教育政策研究所 教育課程研究センター])」を引用した(各項目の囲みの部分)。

設問ごとの具体的な課題は、実際の授業場面で改善していくべきものである。児童生徒質問紙調査の結果で小学校6年生「算数B：主として活用」と「国語B：主として活用」で、問題を簡単と感じた児童の割合を全国と比較した場合、仙北市の小学校6年生は問題を簡単と感じた割合が少ないという結果が出ている。また、「国語B：主として活用」では、解答時間が十分と感じた児童の割合が少ないという結果が出ている。中学校3年「数学B：主として活用」では、解答時間を十分であるとと感じた生徒の割合と問題を簡単と感じた生徒の割合を全国と比較した場合、仙北市の中学校3年生はいずれもその割合が少ないという結果が出ている。これは、類似の問題を解いた経験が少ないということや問題を解くスピードが身に付いていないということだけでなく、授業において類似の学習課題に接した経験が少ないという児童生徒の実態を推察させる。

各設問に示されている改善策の例は、各学年の具体的な授業場面における改善の参考となる事柄である。これを、実際の授業場面に置き換えて活用したい。

(1)主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について

小学校6年「国語」「A:主として知識」について

ア)「設問番号7」「スピーチでの聞き手に分かりやすい話し方を選択する」「聞き手にとって分かりやすいスピーチをするために大切なことを理解している」について。

(1)聞き手を意識して分かりやすく話す

聞き手を意識して分かりやすく話すためには、二つの面から指導を重視する。一つは、話しの内容面である。相手や目的、条件や状況に応じて、話しの内容や構成を工夫することである。感想や意見、照会や説明などの形式を意識してスピーチをすることが必要である。もう一つは音声面である。分かりやすいスピーチにするためには、具体的な観点(間 聞き手の表情 調子・転調 声量 早さ、など)に留意することである。話し手と聞き手という双方の立場からの自己評価や相互評価を取り入れるようにする。なお、第5・第6学年においては、自分の考えを資料を示しながらスピーチするなどの言語活動を取り入れて指導することが大切である。

(2)題材に対する思いや願いを大切にする

スピーチの指導では、相手を意識し、題材に対する児童の思いや願いを大切にしたい活動を展開する。そのために、学年や時期に合わせ、児童の興味や関心を高めるような題材を設定するなどの工夫が必要である。

(3)様々な場においてスピーチをする。

分かりやすいスピーチができるようになるには、国語科のみならず、各教科等や特別活動との関連を図ることが重要である。スピーチの場としては、グループや学級、学校全体などへと規模を広げたり、対象とする相手を広げたりする。また、時間配分を工夫したり、資料を活用したりする必要がある。各教科等や特別活動における様々な学習活動と関係付けて、計画的に話す能力を育てるようにする。

イ)「設問番号6」「インタビューのメモの工夫を選択する」「話しの要点を聞き取り効率よくメモを取る」について。

(1)内容や形式を工夫してメモを取る

聞く力を付けるために、メモを取るようにする。児童がメモを取る状況として、話す内容を始めから全部記録しようとして後で読みにくかったり、書くことだけに意識を取られて要点を聞き取れなかったりする傾向がみられる。メモを取ることは、「話すこと・聞くこと」(第3・4学年)の言語活動例に位置づけている。様々な目的のために、要点などをメモに取りながら聞くことを通して、情報収集の技能を育てることが大切である。具体的な内容面の指導では、重要な語句や柱となる内容を見出しとしたり、中心文を取り出して要約したりする。また、形式面では、時間軸を中心としてメモの構成や書体の強調などの方法について発達段階に応じて指導を工夫する。

(2)目的や課題に応じてメモを活用する

目的や課題に応じて聞き取ったメモは、話し合い活動や各活動に生かすことができる。目的を明確にしたメモを取るとともに、そのメモを事後の学習にどう活用していくかを計画の段階で見通しておくことも必要である。また、これまでのメモの内容や取り方自体を振り返り、評価する機会を設定する。メモを取る力を高めるとともに、話し合う力や書く力と結びつけた指導を重視する。

(3)メモをとる習慣を身に付ける

国語科の「話すこと・聞くこと」の中で学習したメモを取る力を、「書くこと」や「読むこと」の学習や各教科等の学習、実生活の中で活用できるようにする。そのためには、様々な学習活動の中で、メモを取る場面を意図的に設定したり、メモを取ることを奨励したりすることが必要である。日常的な場面で目的に応じてメモを取る習慣を身に付けるように指導を工夫する。

小学校6年「算数」「A:主として知識」について

ア)「設問番号3-(2)」「 0.5 、 $7/10$ 、 $4/5$ のうち最大の数を数直線上表す」「三つの分数と小数の中で最大の数を見つけ、数直線上に表すことができる」について。

分数の意味を理解できるようにする

指導に当たっては、様々な分数を数直線上に表す活動を通して、このような分数の意味の理解を確実にすることが大切である。

また、分数を数直線上に表すことにより、異分母の分数についても大きさの等しい分数があることに着目できるようにすることが大切である。簡単な分数について、数直線などを用いて実際に調べる活動を取り入れることが、第6学年の分数の学習の基礎になると考えられる。

分数と整数、小数の関係を理解できるようにする。

指導に当たっては、例えば小数を分数の形に表す際、筋道を立てて考えを進めるようにすることが大切である。0.5を例にすると0.5は0.1の五つ分であること、及び $0.1 = 1/10$ であることから、0.5が $5/10$ と表せる。また、小数と分数を一つの数直線上に表す活動を通して、0.3と $3/10$ とが等しいことを確認するなど、小数と分数を整数と同じ系列の中に位置づけることができるようにすることが考えられる。

異分母の分数を同じ数直線上に表すことができるようにする

指導に当たっては、1を10等分した数直線、1を5等分した数直線、1を2等分した数直線などを対応させることによって、分数の大きさについての感覚を豊かにし、分数の意味や大きさについての理解を深められるようにすることが考えられる。

イ)「設問番号4」「 210×0.6 の式で答えが求められる問題を選ぶ」「小数の乗法の意味について理解している」について。

小数の乗法、除法の判断ができるようにする

乗法や除法を適切に用いることができるようにするためには、場面に応じて乗法、除法のいずれを用いるか判断できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、本問題のようにいくつかの場面で乗法か除法かを判断して、立式する活動を取り入れることが考えられる。

簡単な数に置き換えて考えることができるようにする

立式の有効な手立ての一つとして、「簡単な数に置き換えて数量関係を考える」ことが考えられる。例えば選択肢1では「砂糖を0.6kg買って、210円はらいしました。この砂糖1kgのねだんはいくらでしょう。」を簡単な整数の問題「砂糖を6kg買って、210円はらいしました。この砂糖1kgのねだんはいくらでしょう」に直すと、 $210 \div 6$ という答えを求める式ができる。この式を基に小数の文章題の答えを求める式、 $210 \div 0.6$ を導くことができる。

小数の乗法や除法にかかわる文章題の演算を判断する場面で、この手立てを意図的に指導することは、小数の文章題だけでなく、分数の文章題にも有効な手立てとなると考えられる。

「倍」という表現を含む文章題の数量関係を適切にとらえることができるようにする

選択肢4のように、文章に「倍」という表現が含まれている問題は、演算の判断が困難な場合が多い。平成16年度特定の課題に関する調査では、「倍」という表現が含まれる除法の文章題の場合、乗法と誤って判断するといった課題が明らかになっている。このことは整数の問題でも同様である。したがって、「倍」という表現を含む文章題の数量関係を適切にとらえることができるようにすることが必要である。

指導に当たっては「倍」という表現を含む文章から、何が基準量になっているのかを確認して数量関係をとらえられるようにすることが大切である。また、数量関係をとらえやすくするために、図に表すなどの工夫も考えられる。

整数の乗法、除法の意味を確実に理解できるようにする。

第5学年の小数の乗法や除法、第6学年の分数の乗法や除法の意味の理解のためには、整数の乗法や除法の意味の理解が確実に定着していることが必要である。したがって、第2学年で学習する乗法の意味、第3学年、第4学年で学習する整数の除法の意味については、当該学年の指導にとどまらず、乗法や除法の意味の確実な理解と定着を目指す継続した指導が大切である。

中学校3年「国語」「A:主として知識」について

ア)「設問番号8 - 二 - 2」「漢字を読む(草木が繁茂している)」「文脈に即して漢字を正しく読む」、「設問番号8 - 3」「漢字を書く友達に本を力す)」「文脈に即して漢字を正しく書く」について。

(1) [言語事項]を指導するに当たっては、[言語事項]が「話すこと・聞くこと」、及び「読むこと」の学習に役立てるための基礎的・基本的事項である点をおさえる必要がある。そして、三領域の指導を通して、[言語事項]として示されたそれぞれの内容を確実に指導する必要がある。また、その際には、日常生活での実際の言語活動を想定して指導することが効果的である。

(2)漢字は、一字一字を正確に読み書きできるだけでなく、語彙として文脈に即して使用できるようにすることが大切である。また、読んだり書いたりする機会を多くして習熟を図ったり、国語辞典や漢和辞典を積極的に利用させたりすることが大切である。

イ)「設問番号2 - 三」「手紙の後付けの適切な書き方を選択する」「手紙の後付けについて理解している」について。

(1)頭語・結語、主文、後付けなどの手紙の形式について理解させる指導をする必要がある。また、併せて時候のあいさつなどについても指導することが望ましい。その際、日常生活と関連付けて相手意識や目的意識を明確にすることにも留意することが大切である。

(2)「総合的な学習の時間」や学校行事との関連を図って、実際に手紙文を書くこと

を通して指導することも考えられる。

中学校3年「数学」「A:主として知識」について

ア)「設問番号5 - (4)」「円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ」「底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している」について。

空間における直線や平面の位置関係を理解できるようにする

空間図形の学習では、空間における直線や平面の位置関係を理解できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、空間図形を見取り図を見て考えるだけでなく、模型に触れ、様々な角度や視点から観察することが大切である。また、模型を外側から見るだけでなく、例えば、教室を直方体にみたと、床と壁を面ととらえ、その位置関係を考えるなど、いわば模型を内側から見るような活動を取り入れることが考えられる。

平面図形の運動によって空間図形が構成されているとみることができるようになる。空間図形の性質を調べるには、空間図形が平面図形の運動によって構成されているとみることができるようになることが大切である。

指導に当たっては、観察や操作が大切である。例えば、コンピュータなどを利用することによって、面や線の運動について視覚的に理解できるようにすることが考えられる。

見取り図や展開図の特徴とその関係について理解できるようにする

円錐の展開図ではその見取り図の側面に当たる部分が扇形であることや、底面の円周と扇形の弧の長さが等しいことなどを理解できるようにするために、見取り図と展開図の特徴やそれらの関係について理解できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、展開図から円錐を実際に組み立てたり、側面に当たる部分が三角形である展開図を組み立てて、それが円錐にならないことを確認する場面を設定することが考えられる。

錐体と柱体の体積の関係を理解できるようにする

底面が合同で高さが等しい錐体の体積と柱体の体積の比が1 : 3であることを、単に知識として身に付けるのではなく、実感を伴って理解できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、この問題のような実験や実測を通して、体積の量感を確実に身に付けられるようにすることが大切である。

イ)「設問番号10 - (1)」「反比例の表を完成させる」「反比例の関係を表す表から、表中の値を求めることができる」について。

具体的な事象の中にある2つの数量の変化や対応について、表、式、グラフによる表現を相互に関連づけて理解できるようにすることが大切である。

表、式、グラフによる表現を相互に関連させながら反比例の意味の理解を深める
反比例の特徴を表で観察すると、対応する x 、 y の値の積が一定になること、また、「 x の値を 2 倍、3 倍...にすると、それに対応する y の値は $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍...になる」ことをよみとることができる。このような特徴について、式による表現やグラフによる表現と相互に関連付けて理解できるようにすることが大切である。このことによって、反比例の意味や性質の理解が確かなものになり、反比例を「 x が増えれば、 y は減る」という関係にとらえたりするなどの誤りは少なくなると考えられる。

表やグラフに表したり、よんだりすることのよさを感じ得できるようにする

関数の学習においては、表やグラフに表したりよんだりすることで、数量の変化や対応の特徴をとらえることが大切である。

指導に当たっては、対応する x 、 y の値をの組を座標とする点を座標平面上に多数とり、変化や対応の特徴をとらえ、2 点を結ぶことの意味を理解できるようにする必要がある。具体的には、反比例の関係では、グラフの 2 点を結んだ線分上の点の座標と、その x の値に対応する y の値を式から求めて比較することによって、グラフは折れ線にならないことの意味が深まると考えられる。

このように、数量の関係を表やグラフに表したり、それらをよんだりする活動を通して、関数関係を式や表で表すことや、表、式、グラフを相互に関連づけて関数関係を考察することのよさを感じ得できるようにすることが大切である。

(2)主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について

本報告書の「結果」「1 教科に関する調査の結果」「(3)各設問の集計結果から」に示された、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について、各設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、「B：主として活用」について特徴的なものを例にして改善策の例について示す。

小学校 6 年「国語」「B：主として活用」について

「設問番号 2 - 二」「古紙の再生利用が重要な課題となってきた理由を書く」「取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての的確に読み、その理由を要約する」こと、「設問番号 2 - 三 - (1)」「古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く」「情報の中から必要な事柄を取りだし、新聞の一部に注意点として書き換える」こと、「設問番号 3」「同じ本を読んで書いた 2 人の感想文から、共通する書き方の良いところを書く」「二つの文章を比べて読み、共通する書き方の良さや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめる」について。

(1)取材した資料を読む力を高める

書くためには、一定のプロセスを踏まえることが必要となる。そこで、この問題は、

取材した資料を読むプロセスを取り上げるようにした。自分の考えをまとめて書くために、取材した文章や資料を的確に読むことが大切である。

(2) 複数の文章や資料を関連づけて読む力を高める

調べるための文章や資料には、教科書教材はもとより、事典や新聞記事、雑誌、パンフレット、図表やグラフ等がある。これらの文章や資料を正確に理解する力は、国語科以外でも必要となる。また、設問1のように、複数の資料を関連づけて読む力も情報活用能力として各教科等の学習で求められる。こうした力を高めるためには、複数の文章や資料を調べて検討するような学習を展開するようにする。具体的には、文章と図表やグラフなどを関係付けながら読むこと、説明されている事柄を図表やグラフの形式に整理すること、図表やグラフから読み取った事実を基に意見をもつなどの言語活動を行うようにする。

(3) 条件に応じて書く力を高める

自分の考えや感想を自由に記述することはできても、条件に応じて書くことが難しいことについては、教育課程実施状況調査等で指摘されている。設問3(2)のように、目的や意図に応じて妥当な時数を設定する以外にも、いくつかの条件に基づいて記述できるようにする。例えば、賛成か反対かいずれかの立場から客観的な情報を取り入れて意見文を書くなどの指導を工夫する。

小学校6年「算数」「B:主として活用」について

ア)「設問番号4 - (1)」「木曜日と日曜日に安売りをするケーキ屋で指定されたケーキを買うとき、どちらの曜日がいくら安くなるかを求める式と答えを書く」「条件を基に各曜日の代金を求めて比較できる」について。

百分率の意味を理解し、それを問題解決に用いることができるようにする

日常生活においても「定価の20%引き」や「30%増量」のような表記が数多く見られる。百分率の学習を基にして、これらの数量を求められることが大切である。そのためには、百分率の意味を確実に理解していることが必要である。

指導に当たっては、設問(1)を例にすると、次の2点に留意することが考えられる。

()「定価1200円の20%」が定価1200円の0.2倍、つまり 1200×0.2 となることを理解できるようにすること。

()「定価の20%」と「定価の20%引き」との意味を区別できるようにすること。
また線分図などを用いて数量の関係をとらえやすくするという工夫が考えられる。

筋道を立てて考えることができるようにする

問題解決に当たっては、与えられた条件や問題を解決する過程を式や言葉、図でかいたりして、筋道を立てて考えられるようにすることが重要である。

指導に当たっては、問題が解決できないときや答えを間違えてしまったときは、自分が考えた筋道を振り返らせて、どこでつまづいたのか、どこで間違えたのか、ということに気付かせたり、友達どうして話し合わせたりする活動を取り入れることが考

えられる。

算数で学習したことを生活に生かすことができるようにする

算数で学習したことを生活の中で活用することによって、学習したことの理解が一層深まるようになる。

指導に当たっては、本問題のように日常生活の問題場面を取り入れたり、身の回りから算数にかかわる事柄を見つける活動を取り入れたりすることが考えられる。

イ)「設問番号5 - (3)」「長方形の形をした公園と、平行四辺形をした公園について、面積が広い方の公園を答え、その理由を説明する」「地図を観察して図形を見だし、面積を比較して説明する」について。

図形の性質を理解し、日常生活の問題解決に活用できるようにする

図形の性質を理解し、日常生活にみられる様々な形と関連付けて考えられるようにすることが大切である。

指導に当たっては、日常的な場面において、平面図形の性質を用いて考察し、問題を解決する活動を取り入れることが考えられる。例えば、本問題のように地図の中から三角形や平行四辺形を見だし、その性質を用いて問題の解決を図る活動を取り入れることが考えられる。

図形を構成したり観察したりする活動を通して図形に対する感覚を豊かにする

辺の長さなどの図形の構成要素に着目して、図形を構成したり観察したりすることが大切である。

指導に当たっては、棒などを使って三角形を構成する活動において、三つの辺の長さの関係がとらえられるようにすることが考えられる。

与えられた情報から必要なものを選択できるようにする

一般的に、授業で用いられる問題には解決に必要な情報のみが与えられていて、それ以外の情報は含まれていないことが多い。

しかし、平行四辺形の面積を求める問題として、平行四辺形の面積を求めるのに必要でない情報が含まれている場合、与えられた情報から必要なものを選択することが必要となる。

指導に当たっては、このように過剰な情報を含んだ場面や事柄を提示して、それらの中から問題の解決のために必要な情報を選択する活動を取り入れることが考えられる。

中学校3年「国語」「B:主として活用」について

「設問番号3 - 三」「中学生の広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し、違いを説明する」「資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書く」こと、「設問番号3 - 二」「中学生が作成した広告カードに共通して書かれている情報を二つ書く」「広告カードを比較して、共通して書かれている情報を読み取る」ことについて。

(1)情報を整理・活用する。

社会生活においては、必要な情報を得るために、本や資料等を読むことが大切である。さらに、収集した情報を整理し、目的に応じて活用する力を身に付けさせる必要がある。

例えば、複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理し、自分の考えを発表するような指導が考えられる。また、新聞記事や広告などの複数の資料を、目的に応じて取捨選択し、自分の表現の中に生かすような指導も考えられる。

(2)学校図書館を積極的に利用し、読書に親しむ。

「中学校学習指導要領解説（国語編）」では、「国語科における読むことの学習指導の成果は、生徒の読書意欲を高め、読書力を養い、日常の読書活動に役立てられるものでなければならない」と、読書の重要性が強調されている。ここでは、書店にある広告カードを取り上げて問題を作成しているが、このような形で本を紹介することは学校図書館でも可能である。生徒たちの関心が学校図書館に向き、読書に親しむ意欲が高まるような工夫を行うことが大切である。

中学校3年「数学」「B:主として活用」について

ア)「設問番号5 - (2)」「時間と水温の関係が一次関数であることが分かるグラフの特徴を説明する」「グラフ上の点の並び方を理想化、単純化してとらえることができる」、「設問番号5 - (3)」「水温が80 になる時間を求める法則を説明する」「問題解決の方法を数学的に説明することができる」について。

日常的な事象を理想化し、単純化して数学的に解釈することができるようにする
日常的な場面や、理科などの教科の学習で、現実の問題を解決したり実際のデータの特徴を分析したりするために、それを数学の問題としてとらえ、数学的な表現や処理をすることが有効である。

指導に当たっては、例えば設問(2)のように、実験や観察を通して得られたデータについて、理想化したり、単純化したりすることで、数学の問題としてとらえることを経験することが大切である。また、数学的に解決した結果が実際の問題の解として有効であることを確かめることで、数学の知識・技能や考え方などを様々な場面に活用しようとする意欲や態度を養うことができると考えられる。

根拠とその根拠にもとづいた結論を整理して説明できるようにする

数学の学習では、数量、図形などについて、数学的な性質や関係が成り立つことを指摘し、その根拠を説明する場面がしばしば見られる。また、根拠を示しながら、数学的な性質や関係を説明することは、数学的に表現する力の育成という観点からも大切である。

指導に当たっては、根拠とその根拠にもとづく結論それ自体の内容を理解し、整理してとらえられるようにすることが大切である。例えば設問(2)について、説明すべき結論は「 y は x の一次関数とみることができる」ことであり、その根拠は「点がほぼ一直線上に並んでいる」というグラフの特徴であるというように整理できる。

問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする
様々な問題を解決するために数学を活用する方法を見いだしたり、その方法について説明したりすることは、問題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する上で有効である。

指導に当たっては、方法を示し、それをを用いて解決させるだけでなく、例えば、設問(3)のように、生徒が数学を活用する方法を見いだすようにすることが大切である。また、その方法について、式や表などの「用いるもの」と「その使い方」について説明する場面を設定することが大切である。

イ)「設問番号 2 - (2)」「連続する 5 つの自然数の和が 5 の倍数になることを説明する」「ものごとを発展的に考えることができる」について。

説明を振り返り、文字式の意味を多様によみとることができるようにする
文字式の学習では、ある数量を文字式を用いて表現したり、文字式による説明を振り返り、文字式の意味を多様によみとったり、言葉で的確に表現したりすることが大切である。

例えば、連続する 2 つの奇数の和について、 n を自然数とすると、

$$(2n - 1) + (2n + 1) = 4n = 2 \times 2n$$

となることから、その和が「4 の倍数になる」ことに加え、「偶数になる」ことや、「2 つの奇数の間の偶数の 2 倍になる」というようにもよみとることができる。

このように、文字式によみとりを柔軟にできるようにしておくことで、説明を振り返った際に、新たな性質に気づくことができるようになると考えられる。

問題の条件を変えるなどして、発展的に考えられるようにする

数や図形についての性質を見つける際には、具体的なものから帰納的に考える場合や、ある性質をもとに条件を変えて考える場合などがある。

後者の例として設問(2)のように、3 つの自然数の和を 5 つの自然数の和にしたり、次のように (図は省略) もとになる図形を正三角形()から、正方形()に変え、発展的に考えたりすることがあげられる。

指導に当たっては、条件を変えて考察の範囲をさらに広げるとどうなるかなど、発展的に考えるための視点を示し、生徒自らが新たな性質を発見できるようにすることが大切である。

文字式を活用して、ことがらが成り立つ理由を説明できるようにする

整数の性質などを考察する場面では、具体的な数値を文字で表すことによって、性質の一般性を保証することができるので、文字式を有効に活用して説明できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、必要な数量を文字式を用いて表現したり、文字式の意味をよみとったり、また目的に応じて文字式を変形し、その式を説明したりすることで一般性を保証した結論を導くようにすることが考えられる。

例えば、本問題の「連続する 3 つの自然数の和」について、数値を使って計算する

と、

$$1 + 2 + 3 = 6 = 3 \times 2$$

$$2 + 3 + 4 = 9 = 3 \times 3$$

$$3 + 4 + 5 = 12 = 3 \times 4$$

となり、3の倍数になることが推測できる。ここで連続する自然数について、

$$1 + 2 + 3 = \underline{1} + (\underline{1} + 1) + (\underline{1} + 2) = 6$$

$$2 + 3 + 4 = \underline{2} + (\underline{2} + 1) + (\underline{2} + 2) = 9$$

$$3 + 4 + 5 = \underline{3} + (\underline{3} + 1) + (\underline{3} + 2) = 12$$

と表すことができ、その規則性を探ることで、連続する3つの自然数を、 \underline{n} 、 $\underline{n+1}$ 、 $\underline{n+2}$ と文字を用いて表現できる。そして、これらの和である $3n+3$ を $3(n+1)$ と変形することで、3の倍数とよむことができる。

ウ)「設問番号1 - (2)」 「レストランのセットメニューで、条件を満たすメニューを選択する」 「情報を分類整理し適切に選択し、判断することができる」 について。

実生活や数学の世界での様々な場面で、与えられた情報を分類整理し、必要な情報を選択して判断することや、ことがらが成り立つ理由を与えられた情報にもとづいて説明することが求められることがある。このような場面では、数学的な知識・技能や数学的な表現などを用いて説明することができることが大切である。

情報の選択や判断に、数学的な知識・技能などを活用できるようにする

実生活において、料理をしたり交通手段の組合せを考えたりする際に、与えられた情報にもとづいて目的に応じて選択したり、判断をしたりすることが必要になる。そのような場合、数学的な知識・技能を活用することが大切である。

指導に当たっては、例えば設問(2)のように、問題解決の目的に応じて、情報の整理に樹形図や表を活用するなどの方法を選択したり、条件を満たす組合せを考えるために表の整理の仕方を考えるなど、情報の整理を工夫する機会を設定することが大切である。

ことがらが成り立つ理由を、数学的な表現を用いて適切に説明できるようにする

ことがらが成り立つ理由を説明する場合には、そのことがらが成り立つ根拠と結論の両方を示す必要がある。その際、言葉だけでなく、記号や式など数学的な表現と組み合わせて用いると、より簡潔でわかりやすい説明になる。

指導に当たっては、例えば設問(3)のように、根拠にもとづいて結論まで説明できる場面を設定することによって、方程式を解く対象としてだけでなく、説明に用いる方法としてもとらえられるようにすることが考えられる。

エ)「設問番号3 - (3)理由」 「新たにつくった計算式が条件に合うことを説明する」 「問題解決の構想を立て、結果を振り返りながら、数学的な表現を用いて説明でき

る」ことについて。

問題解決のために構想を立てたり、その構想による結果を振り返って改善したりすることは、日常的な場面でよく見られる。構想を立てるためには、いろいろな条件を整理して、問題を把握し解決への見通しをもつこと、その構想を実践した結果を検証し、振り返って改善することが大切である。

問題解決のための構想を立て、結果を振り返って改善できるようにする

問題解決のための構想を立てるには、問題に含まれる条件などを明らかにし、整理し、解決への見通しをもつ必要がある。また、立てた構想は、実践して得られた結果の検証にもとづいて、必要に応じて改善していくことが大切である。

例えば、設問(3)では、与えられている条件のもとでは、1度も負けていないチーム(Rチーム)が2位になることに疑問を感じた生徒が、新しい決め方を構想しようとする場面などを想定できる。生徒は、与えられた表や式から勝った場合と引き分けた場合の試合数と、それぞれに与えられる点数の関係に着目し、立式の方針を立てる。そして $3a + b$ の係数に着目し、それを変更しながら、条件を満たす場合を求めていくことになる。さらに、求めた式が条件を満たさなければ、その改善を図ることになる。

問題解決のための構想を立て、結果を振り返って改善できるようにするためには、例えば、文章題から方程式を立式する場面や図形の論証の場面などで、題意を的確に判断し、与えられた条件を目的に応じて整理し、解決までの方針を立てる習慣を身に付けるようにすることが大切である。また、方程式を解いた後、得られた解を問題場面に照らし合わせて考えたり、その結果を受けて方程式の解き方を見直したりする機会を設定することが必要である。

ことがらが成り立つ理由を、数学的な表現を用いて適切に説明できるようにする

ことがらが成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する場合、根拠となる事実を示した上で、結論を述べることが大切である。

例えば、設問(3)で、QチームとRチームの2チームが同点で1位になる理由を説明するためには、そのことを示す計算結果に加え、この2チームが「同点で1位になる」という結論を記述する必要がある。

指導に当たっては、文字式を用いた説明や図形の論証の学習場面に限らず、数学科の学習全般にわたって、ことがらが成り立つ理由を説明する学習場面で、説明すべきことがらの根拠と、それによって説明される結論の両方を述べる機会を意図的に設定することが大切である。

3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について

地域人材の活用

「学校質問紙調査」の小学校では、学校教職員以外の人材を活用した授業に関して「地域の人材を外部講師として招聘した授業」「ボランティア等による授業サポート(補助)」に取り組んでいる学校の割合が全国と比較して低いという結果が出ている。今後の学校教育の活性化を考えると、地域人材の活用とボランティア等の活用は重要な課題と言える。

各学校が地域の人材を活用するにあたっては、報酬・保険等を含めた費用に係る問題、人材確保に係る問題、ボランティアと学校とのコーディネート(連絡・調整)に係る問題がある。これらの問題の解決を図りながら、地域人材と学校教育ボランティアの活用を図る教育施策が求められている。

施設・設備について

「学校質問紙調査」の施設・設備に関する質問事項の集計結果を「表18」から「表22」に示す。このうち、「表19」の「学校の職員用コンピュータ1台当たりの職員数」を見ると、特に小学校に改善の必要がある。(調査は平成19年4月24日現在で行われており、19年8月に配備された西木地区の小学校2校は配備前の状況での回答)

「表20」の小学校設問(26)、中学校設問(28)「学校図書館図書標準が達成されていますか」の質問に対して、仙北市は小・中学校ともに達成している学校の割合が全国・秋田県と比較して低い。特に中学校は、達成している学校が無い。

今後の学習指導で重要視されている言語活動を充実させる上から、また、読書を好きと答えた児童・生徒は正答率が高い傾向があることから、学校図書館の蔵書の充実は大きな課題であり、改善の必要がある事項である。

表 1 8

質問 番号	質問事項	校 種	項目	1「3 人未 満」	2「3人以 上、6人未 満」	3「6人以 上、9人未 満」	4「9人以 上、12人未 満」	5「12人以 上」	6「配備 されてい ない」
小(22)	学校の教 育用コンピ ュータ1台 当たりの児 童数	小 学 校	仙北市の割合	11.1	44.4	33.3	11.1	0	0
			秋田県の割合	31.9	33	13.5	11.7	9.9	0
			全国の割合	28.9	19.5	14.1	11.1	26.3	0.2
中(24)	当 た り の 児 童 数	中 学 校	仙北市の割合	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
			秋田県の割合	35.8	32.8	15.7	11.9	3.7	0.0
			全国の割合	29.3	19.9	19.0	14.6	16.8	0.1

(児童数÷教室やPCルーム等の教育用コンピュータの台数)

表 1 9

質問 番号	質問事項	校 種	項目	1「1人 未満」	2「1人 以上、2 人未満」	3「2人 以上、3 人未満」	4「3人 以上、4 人未満」	5「4人 以上、5 人未満」	6「5 人 以 上」	7「配備 されてい ない」
小(23)	学校の職員用コンピュータ1台当たりの職員数(事務職員は除く)	小学 校	仙北市の割合	0	22.2	11.1	0	11.1	44.4	11.1
			秋田県の割合	18.4	19.2	5.7	6.4	6.7	39.7	3.9
			全国の割合	13.6	17.6	11.2	10.5	8.3	36.2	2.6
中(25)		中学 校	仙北市の割合	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
			秋田県の割合	17.9	14.2	6.0	5.2	8.2	43.3	5.2
			全国の割合	12.5	16.6	10.2	10.5	8.7	38.2	3.0

(職員数÷職員用コンピュータの台数)

表 2 0

質問 番号	質問事項	校 種	項目	1「はい」	2「いいえ」
小(24)	普通教室に教育用コンピュータが設置されていますか	小学 校	仙北市の割合	11.1	88.9
			秋田県の割合	35.8	64.2
			全国の割合	29.6	70.4
中(26)		中学校	仙北市の割合	20.0	80.0
			秋田県の割合	20.1	79.9
			全国の割合	22.3	77.5
小(25)	普通教室にLANが整備されていますか	小学 校	仙北市の割合	66.7	33.3
			秋田県の割合	58.5	41.5
			全国の割合	43.5	56.4
中(27)		中学校	仙北市の割合	60.0	40.0
			秋田県の割合	64.9	35.1
			全国の割合	43.6	56.1
小(26)	学校図書館図書標準が達成されていますか	小学 校	仙北市の割合	22.2	77.8
			秋田県の割合	35.8	64.2
			全国の割合	46.4	53.3
中(28)		中学校	仙北市の割合	0.0	100.0
			秋田県の割合	33.6	65.7
			全国の割合	41.7	57.1

表 2 1

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定めたもの

学級数(小)	小学校で整備すべき蔵書の標準	学級数(中)	中学校で整備すべき蔵書の標準
1	2,400	1 ~ 2	4, 800
2	3,000	3 ~ 6	4, 800 + 640 × (学級数 - 2)
3 ~ 6	3,000 + 520 × (学級数 - 2)	7 ~ 12	7, 360 + 560 × (学級数 - 6)
7 ~ 12	5,080 + 480 × (学級数 - 6)	13 ~ 18	10, 720 + 480 × (学級数 - 12)
13 ~ 18	7,960 + 400 × (学級数 - 12)	19 ~ 30	13, 600 + 320 × (学級数 - 18)
19 ~ 30	10,360 + 200 × (学級数 - 18)	31 ~	17, 440 + 160 × (学級数 - 30)
31 ~	12,760 + 120 × (学級数 - 30)		

例えば、小学校で18学級の場合……………10, 360冊

例えば、中学校で15学級の場合……………12, 160冊

表 2 2

質問 番号	質問事項	校 種	項 目	1「十分 ある」	2「ある」	3「あまり ない」	4「全くな い」	
小(27)	少人数指導を行う ための学習スペー スはありますか	小 学 校	仙北市の割合	33.3	44.4	22.2	0	
			秋田県の割合	24.5	50.7	20.6	4.3	
			全国の割合	19.8	47.8	24.7	7.7	
中(29)		少人数指導を行う ための学習スペー スはありますか	中 学 校	仙北市の割合	20.0	80.0	0.0	0.0
				秋田県の割合	24.6	62.7	11.2	1.5
				全国の割合	19.5	55.0	22.1	3.2

4 その他

家庭・地域・学校の一層の連携

「児童生徒質問紙調査」の結果と「教科に関する調査」をクロス集計し、「児童生徒質問紙調査」の回答率と「教科に関する調査」の正答率で、特定の項目に相関関係がみられことは既に述べた。

例えば「基本的な生活習慣や学習習慣に望ましい傾向がある児童は正答率が高い傾向がある」ことや「家庭生活に望ましい傾向がある児童は正答率が高い傾向がある」ことから、各学校では自校の状況に応じて、児童・生徒がさらに望ましい姿となるように家庭・保護者との連携をはかる必要がある。

家庭では子どもの基本的な生活習慣や学習習慣などに関心を持ち、学校と協力して一層望ましい姿になるよう家庭教育を充実させることが望まれる。

また、仙北市の子どもたちが地域に対する愛着が深く、地域生活において望ましい傾向がみられることは、地域住民の支えが大きく影響していると考えられる。この点からも、これまで以上に家庭・地域・学校の連携を一層深めることが重要であると考ええる。

資料 1

「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱

平成19年12月20日
教育委員会告示第19号

(目的)

第1条 この要項は、文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」(以下「本調査」という。)の仙北市及び仙北市立小・中学校の調査結果について文部科学省から提供される情報(以下「結果」という。)の取扱について必要な事項を定めることを目的とする。

(結果の公表)

第2条 仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1)教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2)本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3)本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4)本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5)本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

(結果の公表の内容)

第3条 文部科学省が市町村教育委員会に提供する結果の資料(別表1)について、公表に係る取扱は次の通りとする。

- (1)「1」の公表については、国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。平均正答率の比較以外の結果は公表しない。
- (2)「2」の公表については、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」に国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係について

も併せて公表する。各設問ごとの結果の比較は公表しない。

- (3) 「別表 1」の「 3」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (4) 「別表 1」の「 4」については、公表する。
- (5) 「別表 1」の「 5」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (6) 「別表 1」の「 6」～「 8」は公表しない。

(改善策の立案)

第 4 条 結果を受けた改善策は仙北市教育委員会教育研究室「算数・数学学習指導研究委員会」及び「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

(結果の公表の方法)

第 5 条 第 3 条に示す公表の内容及び第 4 条に示す改善策は、仙北市教育研究室において、改善策の策定後すみやかに報告書を作成し公表する。

(情報公開)

第 6 条 仙北市情報公開条例第 7 条 6 号を根拠として第 3 条に示す公表内容以外の情報は不開示情報とする。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める

附則

この告示は、平成 19 年 12 月 20 日から施行する

(別表1)「文部科学省が市町村教育委員会に提供する資料」(第3条関係)

	内 容	備 考
1	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果概況	(1)棒グラフ(正答数別児童生徒の割合) (2)数値(正答数別の児童生徒数、平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差)
2	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	(1)表(「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の平均正答率) (2)表(各設問ごとの「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の正答率、無回答率)
3	各市町村域内の公立学校全体の質問紙調査の回答状況	(1)表(児童生徒質問紙の各質問の選択し別の児童生徒数、割合)(選択肢別の学校数、選択肢別の学校数の割合) (2)棒グラフ(各質問の選択肢別の児童の割合)(選択肢別の学校の割合)
4	各市町村が設置管理する学校の参加概況等	
5	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果と児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計表	(1)表(各質問について四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数) (2)表(各質問について四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数の割合)
6	各学校の各教科区分別の調査結果概況	各学校に提供される情報
7	各学校の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	各学校に提供される情報
8	各学校の各児童生徒の各教科の調査・児童生徒質問紙への解答(回答)状況	各学校に提供される情報

「四分位層」...成績の上位から25%のきざみで4つのグループに分け相関の度合いを示す

(別表2)「(別表1)の1及び2の公表に係る階層区分と表現」(第3条関係)

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+5%以下～-5%以上であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が-6%以下であるもの	改善が必要な状況

資料2 仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会名簿

役員氏名	備 考
委員長 入 江 清一郎	教育研究室 国語学習指導研究委員会委員長（教育研究室総合教育アドバイザー）
副委員長 鈴 木 幸 一	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員会委員長（桧木内中学校長）
副委員長 浦 山 英一郎	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（角館東小学校・教育専門監）

委員氏名	備 考
桑 野 千 尋	教育研究室 国語学習指導研究委員（角館西小学校）
佐 藤 知栄美	教育研究室 国語学習指導研究委員（中川小学校）
鈴 木 久美子	教育研究室 国語学習指導研究委員（角館東小学校）
小 松 智加子	教育研究室 国語学習指導研究委員（西長野小学校）
千 葉 栄 子	教育研究室 国語学習指導研究委員（白岩小学校）
渡 部 紘 子	教育研究室 国語学習指導研究委員（生保内小学校）
草 薨 美由喜	教育研究室 国語学習指導研究委員（神代小学校）
富 岡 知 美	教育研究室 国語学習指導研究委員（西明寺小学校）
佐 藤 有 紀	教育研究室 国語学習指導研究委員（桧木内小学校）
小笠原 直 子	教育研究室 国語学習指導研究委員（角館中学校）
粟 津 明 子	教育研究室 国語学習指導研究委員（生保内中学校）
佐 藤 公 則	教育研究室 国語学習指導研究委員（神代中学校）
清 水 靖	教育研究室 国語学習指導研究委員（西明寺中学校）
後 藤 匡	教育研究室 国語学習指導研究委員（桧木内中学校）
金 子 徹 章	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（角館西小学校）
板 垣 涉	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（中川小学校）
厨 川 浩 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（西長野小学校）
藤 島 宏 明	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（白岩小学校）
草 薨 裕 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（生保内小学校）
佐々木 潤 一	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（神代小学校）
藤 田 寿	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（西明寺小学校）
鎌 田 真寿美	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（桧木内小学校）
木 村 光 紀	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（角館中学校）
伊 藤 知 巳	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（生保内中学校）
小 松 朋 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（神代中学校）
赤 川 嗣 昭	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（西明寺中学校）
戸 澤 聖 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（桧木内中学校）
田 口 和 典	教育研究室長

資料3 本報告書作成に当たって、引用・参照した文献等

「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 算数」
「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校 国語」
「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校 数学」
いずれも 平成19年5月 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

「平成19年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・問題趣旨について」
文部科学省ホームページ

<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/tyousa/tyousa.htm>

「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」
(平成19年11月7日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会)
文部科学省ホームページ

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/001/07110606/001.pdf